

短期大学の役割と今後のあり方に関する教員調査

—単純集計と自由記述—

- 調査時期:2022年12月～2023年1月
- 調査対象:助教以上の全国短大教員 約半数
令和4年度「学校基本調査」6134人
- 配布数:3245人(30都道府県)
北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島、茨城、
栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、新潟、
富山、石川、岐阜、静岡、三重、奈良、和歌山、鳥取、
島根、岡山、大分、宮崎、鹿児島、沖縄
- 有効回収数:915(内、東京156人)
- 回収率:28.2%
- 研究費:JSPS科研費 課題番号20H01701
(研究代表者 加野芳正)

■ ■ 調査担当 ■ ■

加野芳正(香川短期大学)

藤村正司(徳島文理大学)

西本佳代(香川大学)

短期大学の役割と今後のあり方に関する教員調査

N=915人

—協力のお願い—

- この調査は、ユニバーサル化する高等教育システムのなかで地域密着型の短期大学がどのような役割を果たし、どのような困難に直面しているのか、その実態と短期大学のあり方についての意見をお尋ねし、今後の短期大学の教育に寄与することを目的とするものです。
- この調査は、令和2年度「科学研究費：基盤(B)」(高等教育のユニバーサル・アクセス時代における短期大学の総合的研究：代表 加野芳正)を得て行うものです。
- 調査票は、全国の短期大学を無作為に選び、庶務・総務係から先生方のメールアドレスに投函して頂いたものです。ご多忙中のところ、大変恐縮でございますが、何卒ご協力をいただきたくお願い申し上げます。回答には10分程度要します。
- 回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることは決してありません。また、個別短大が特定化される集計は行いません。
- 回答は1月14日までに、同封の返信用封筒(切手不要)にてご返送ください。

香川短期大学 加野芳正

2022年12月

1. 勤務先についてお聞きします。

問1. あなたの所属する学科の分野、入学定員、定員充足率、専任教員数について、それぞれお答え下さい。該当する番号一つに○。

① 学科の分野	② 学科の入学定員	③ 定員充足率	④ 学科の専任教員数
1. 人文 7.0	1. 20人未満 0.4	1. 30%未満 0.8	1. 10人未満 31.1
2. 社会 8.6	2. 20~30人 3.3	2. 30~40% 1.9	2. 10~20人 56.5
3. 教養 3.4	3. 31~50人 15.3	3. 41~50% 3.7	3. 21~30人 10.5
4. 工業 1.0	4. 51~80人 20.5	4. 51~60% 8.3	4. 31~40人 1.7
5. 農業 0.4	5. 81~100人 21.3	5. 61~70% 13.6	5. 41~50人 0.1
6. 保健(看護) 10.3	6. 101~130人 12.4	6. 71~80% 19.2	6. 50人以上 0.1
7. 家政 15.5	7. 131~160人 10.9	7. 81~90% 15.1	
8. 教育・保育 36.6	8. 161~200人 8.3	8. 91%以上 37.5	
9. 芸術 3.2	9. 201~250人 5.1		
10. その他 13.9	10. 250人以上 2.3		

問2. あなたの所属する学科で、取得可能な資格や免許にいくつでも○をつけて下さい。

1. 保育士 41.9 2. 幼稚園教諭二種免許 41.1 3. 小学校教諭二種免許状 5.8 4. 養護教諭二種免許状 1.3
5. 栄養士 17.6 6. 栄養教諭 9.5 7. 調理師 0.8 8. 製菓衛生師 0.8 9. 看護師 6.6 10. 臨床検査技師 0.2
11. 理学療法士 0.8 12. 作業療法士 0.8 13. 歯科衛生士 5.4 14. 歯科技工士 0.9 15. 介護福祉士 5.4
16. 図書館司書 8.0 17. 社会教育主事 0.7 18. 社会福祉主事 16.8 19. 自動車整備士 0.5
20. 上級情報処理士 3.6 21. MOS検定 7.8 22. 二級建築士 1.7 23. 秘書検定 14.1 24. 日商簿記 13.6
25. その他 24.4 (中学校教員二種免許、フードスペシャリスト、ピアヘルパー、ベビーシッター資格、医療事務など)

問 3-1. 貴学科の改組・再編の状況についてお伺いします。過去 5 年に改組・再編、あるいは現在構想中の有無をお答え下さい。

過去 5 年に改組・再編した/ 現在、構想中である	1. いいえ 41.1	2. はい 44.7	3. わからない 14.2
------------------------------	-------------	------------	---------------

問 3-2. 問 3-1 で、「2. はい」と回答された方にお聞きします(「1. いいえ」の方は、問 4 に進んで下さい)。改組・再編は具体的にどのような内容でしょうか。該当する番号にいくつでも○をつけて下さい。

1. 名称変更 9.5 2. 入学定員変更 9.6 3. 専攻分離 22.7 4. 専攻増設 2.2 5. 募集停止 3.9
6. 男女共学化 8.2 7. 併設大学の短期大学部 0.7 8. 3年コース 2.2 9 その他 11.3

(4年制大学化、カリキュラム改革、コース改編 学科新設 公立化 専攻合併など)

問 3-3. 問 3-1 で、「2. はい」と回答された方にお聞きします。改組・再編は、以下の事柄からどの程度影響を受けているとお考えですか。○は一つずつ。

a~d. まで○は一つずつ	かなり影響 がある	やや影響 がある	あまり影響 がない	全く影響 がない	分から ない
a. 志願者の減	67.3	14.1	8.6	3.3	6.8
b. 志願者の増	4.4	12.8	13.1	53.4	16.3
c. 自治体の政策・地域課題への対応	8.4	21.5	26.1	22.9	20.1
d. 組織のコスト管理の必要性	31.4	31.1	14.1	7.7	15.7
e. 新規需要(マーケット)の開拓	20.1	33.2	15.0	13.6	18.2

問4. 貴学科では、以下の知識・技能・態度の発達を、どの程度重視していますか。○は一つずつ。

(a~j. まで○は一つずつ)	とても 重視	ある程度 重視	あまり重 視しない	全く重視 しない	分から ない
a. 専門的な知識や技能	68.7	27.5	2.9	0.7	0.3
b. 幅広い知識、技能、教養	38.5	51.4	9.1	0.7	0.3
c. 職業や進路選択への方向付け	55.0	39.3	4.4	0.7	0.6
d. 一般的な常識や礼儀・マナー	36.4	56.0	5.9	0.8	0.9
e. 人とのコミュニケーション能力	57.5	39.4	2.3	0.3	0.4
f. チームで仕事をする力	45.7	46.6	6.3	0.4	0.9
g. 自分で考え、行動する力	47.1	45.0	6.4	0.8	0.8
h. 数理・データサイエンス・AI 等に関する知識	4.1	32.1	47.2	13.3	3.3
i. リーダーシップ	22.1	60.6	16.7	1.5	1.0
j. 自分に対する自信	22.6	56.7	15.2	2.1	3.4

問5. 貴学科での学習について、以下の項目をどの程度重視していますか。○は一つずつ

(a~e.まで○は一つずつ)	とても重視	ある程度重視	あまり重視しない	全く重視しない	分からない
a. 進路や悩みなどを気軽に相談できる体制	64.8	32.7	2.0	0.2	0.3
b. インターネット・ウェブを活用する	20.1	60.6	16.7	1.5	1.0
c. 図書館を利用する	13.1	60.8	22.7	2.2	1.2
d. 授業以外で教員と交流する機会	22.7	58.2	16.9	1.0	1.2
e. 部活・サークルなど学生同士の交流の機会	6.1	48.2	37.9	5.1	2.8

問 6-1. およそ 10 年前と比べて、あなたが所属する学科のスタッフ数、あなた自身の授業コマ数や給与は、どのように変わりましたか。また、将来の見込みについて、お答え下さい(着任 10 年未満の方は、赴任当時と比べて下さい。以下の問いも同じ)。

a~d. まで○は一つずつ	(1) 10 年前と比べて				(2) 将来の見込み			
	増加した	変わらない	減少した	分からない	増加する	現状維持	減少する	分からない
a. 教員スタッフの人数	7.5	41.1	41.3	10.1	4.2	39.5	33.0	23.2
b. 事務スタッフの人数	9	43.2	31.8	16.0	2.1	42.9	23.3	31.8
c. 授業コマ数	38.8	42.2	7.7	11.4	27.6	42.2	5.9	24.3
d. 給与	32.9	39.2	15.1	12.8	10.9	33.4	21.9	33.8

問 6-2 問 4-1 で教員スタッフが「減少した」と回答された先生にお聞きします。どのように対応されていますか。当てはまる番号にいくつでも○を付けて下さい。

1. 専任教員が代替している 25.7 2. 非常勤教員を当てている 23.9 3. 退職教員を当てている 6.7 4. 特任教員を当てている 7.0 5. 授業科目を削減した 6.1 6. 後任補充を要望している 5.8 7. とくに何も対応していない 2.0 8. その他 1.5 (自分の担当コマ数を増やす、学科でかけ持ち)

2. 仕事時間と教育研究活動についてお聞きします。

問 7-1. あなたの一週間の平均的な①仕事時間はどれくらいですか。また、②望ましい仕事時間はどのくらいですか。当てはまる番号に○を一つ。

①仕事時間	30 時間未満	30-39 時間	40-49 時間	50-59 時間	60-69 時間	70 時間以上
	3.8	13.3	37.9	25.7	12.7	5.4
②望ましい仕事時間	30 時間未満	30-39 時間	40-49 時間	50-59 時間	60-69 時間	70 時間以上
	8.9	33.0	49.5	7.0	1.2	0.4

問 7-2. あなたの学期中の仕事時間の割合(%), および「望ましい」仕事時間の割合(%)を合計が 100%になるように記入して下さい。平均値

	1. 現状	2. 望ましい
a. 教育 (学外非常勤も含む授業時間、授業準備時間、レポート添削、成績評価、学生指導など)	54.0%	45.8%
b. 研究 (文献講読、論文・著書執筆、実験、フィールドワーク、学会・研究会への参加・報告、外部資金の申請、演奏・展示会の準備など)	13.1%	29.6%
c. 管理運営 (各種委員会、教員会議、事務など)	24.5%	13.5%
d. 社会貢献 (学外審議会、患者・依頼人へのサービス、コンサルタント、講演など報酬を伴う学外活動)	8.3%	11.2%
(合計が100%になるようにご確認下さい)	100%	100%

問 8. あなたご自身の関心は、教育と研究のどちらにありますか。該当する番号一つに○を付けて下さい。

1	主として 教育 27.0	2	どちらかと言え ば、教育 39.4	3	どちらかと言え ば、研究 27.7	4	主として 研究 5.9
---	-----------------	---	----------------------	---	----------------------	---	----------------

問 9. あなたは、現在、4年制大学に移動希望がありますか。該当する番号一つに○を付けて下さい。

1	とてもある 23.7	2	ややある 23.6	3	あまりない 23.3	4	全くない 17.4	5	分からない 非該当 12.0
---	---------------	---	--------------	---	---------------	---	--------------	---	-------------------

問 10. あなたは、(1) 過去3年間に、以下の研究活動をおよそどのくらい発表されましたか。○は一つずつ。

a~fまで○は一つずつ	過去3年間に			
a. 査読付き学術論文 (単著・共著)	0篇 40.0%	1~5 55.1%	6~10 4.3%	11~15 0.3%
	16~20 0.1	21~30 0.1	31~40 0.0	41以上 0.0
b. 学術書 (単著・編著)	0冊 74.9%	1冊 15.6%	2冊 4.8%	3冊 3.3%
	4冊 0.3%	5冊 0.6%	6冊 0.1%	7冊以上 0.3%
c. 教科書 (分担執筆)	0冊 64.9%	1冊 18.3%	2冊 8.4%	3冊 4.4%
	4冊 2.1%	5冊 0.9%	6冊 0.6%	7冊以上 0.4%
d. 助成を受けた報告書・モノグラフ	0冊 74.4%	1~5 24.9%	6~10 0.7%	11~15 0.1%
	16~20 0.0	21~25 0.0	26~30 0.0	31冊以上 0.0
e. 演奏会・展示会など芸術活動	0回 85.9%	1回 2.9%	2回 1.9%	3回 2.4%
	4回 0.5%	5回 1.2%	6冊 0.5%	7回以上 4.7%
f. 学会発表・講演会 (個人・共同) オンラインを含む	0回 24.9%	1回 17.7%	2回 16.4%	3回 12.5%
	4回 4.3%	5回 6.8%	6冊 1.4%	7回以上 15.9%

問 11 . 2022 年度について、大学から配分される「個人研究費」とあなたが獲得された「競争的外部資金」の総額について、お答え下さい。○は一つずつ。

(1) 個人研究費				(2) 競争的外部資金							
1	～10万円	26.5%	5	40～50万円	5.5	1	0円	76.2%	5	150～200万円	2.8%
2	10～20万円	25.6%	6	50～60万円	1.9	2	0～50万円	13.6%	6	200～250万円	0.7%
3	20～30万円	28.1%	7	60～70万円	0.9	3	50～100万円	4.1%	7	250～300万円	0.5%
4	30～40万円	11.4%	8	70万円以上	0.7	4	100～150万円	2.3%	8	300万円以上	0.8%

問 12. 次にあげた活動は、どの程度負担になっていますか。○は一つずつ。

(a～i. まで○は一つずつ)	負担の程度				
	かなり負担	やや負担	あまり負担でない	全く負担でない	該当しない
a. 授業準備	168	438	348	44	02
b. 実習指導・実習支援	213	329	292	41	126
c. 研究室やゼミを通じて、学生との交流	52	252	509	122	65
d. 学生の生活全般の助言・メンター	147	331	409	77	35
e. 論文・著書の執筆	122	355	330	83	110
f. 競争的外部資金の申請	139	213	191	70	386
g. 学科内の業務	359	404	198	26	13
h. 全学の業務	358	378	220	20	24
i. 社会サービス・地域貢献	45	211	507	108	130

6 問 13-1. あなたは、現在の職場で「教育と研究の両立」が困難であると感じたことはありますか。

○は一つ。

1	よくある	48.6%	2	ときどきある	33.9%	3	あまりない	14.5%	4	ほとんどない	3.0%
---	------	-------	---	--------	-------	---	-------	-------	---	--------	------

問 13-2 . 問 13-1.で「1」「2」に○を付けた方にお聞きます。(1)両立困難の理由として該当する番号にいくつでも○を付けて下さい。その上で、(2)最も大きな影響を有していた番号を一つだけ記入して下さい。(3)その困難は、現在克服できていますか。

(1) 両立困難の理由 (○はいくつでも)

1	時間が十分に取れない	74.5%	2	研究費の大幅な不足	17.9%
3	研究スペース・設備・補助スタッフが不十分	30%	4	研究テーマ・共同研究の行き詰まり	16.2%
5	勤務先の経営が危機的状況にある	16.7%	6	同僚が、必ずしも研究活動に熱心ではない	17.7%
7	教育に重点を置いた大学運営	31.7%	8	育児・子育て・介護など家族の問題	18.0%
9	安定した地位(テニュア)が得られない	4.9%	10	年齢的・能力的な限界	19.2%
11	学生の基礎学力が低い	32.7%	12	その他()	

(2) 最も困難な理由 (1時間が十分に取れない 66.2%)

(3) 両立困難の克服 (〇は一つ)

1	ほぼ克服 できた 0.1%	2	ある程度 できた 9.8%	3	あまりできて ない 53.3%	4	全くできて いない 36.8%
---	------------------	---	------------------	---	--------------------	---	--------------------

3. 短期大学のあり方についてお聞きします。

問 14. 以下の要因は、短期大学教育のあり方にどの程度影響を与えてきたと思いますか。〇は一つずつ。

(a~iまで〇は一つずつ)

	とても大きな影響	ある程度の影響	あまり影響ない	全く影響ない	分からない
a. 18歳人口の減少	83.4	15.1	1.2	0.1	0.2
b. 女子の4年制大学志向	50.6	37.5	4	0.8	1.7
c. 学生の基礎学力・学習意欲の低下	40.0	39.8	17.2	1.6	1.6
d. 専門学校が社会的評価を得たこと	18.4	43.6	30.3	2.6	5.1
e. 「短期大学士」の学位授与が認められたこと	5.0	20.8	54.8	11.6	7.8
f. 認証評価制度による短大教育の継続的質保証	11.3	36.7	36.9	6.0	10.1
g. 特色 GP や現代 GP などの競争的外部資金	7.1	29.2	38.9	6.6	18.2
h. 私立大学等改革総合支援事業	10.5	27.9	31.4	5.4	24.7
i. 中央教育審議会答申に見られる政府の政策	11.0	34.9	27.3	4.1	21.9
j. 高等教育の就学新制度による授業料減免	21.1	41.8	21.5	2.5	13.0

問 15. 以下の短期大学の特色として挙げられる事柄について、あなたの職場ではどのようにお考えですか。

〇は一つずつ。

(a~dまで〇は一つずつ)

	とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	分からない
a. 少人数制教育により一人ひとりの個性と進路に合わせた指導ができる。	45.7	38.7	11.9	3.5	0.2
b. 教職員と学生の距離が近く、学生の悩みなど相談しやすい。	64.9	30.6	3.5	0.7	0.3
c. 地域の専門職業人材養成で重要な役割を担っている。	41.5	36.4	17.5	2.9	1.8
d. 多様な生涯学習機会を提供している。	10.5	34.0	41.9	11.6	2.1

問 16. ご所属の短期大学の課題について、どのように考えられますか。○は一つずつ

a~i. まで○は一つ	きわめて重要な課題である	ある程度重要な課題である	あまり重要だと思わない	全く重要だと思わない	分からない
a. 入学者の確保	91.5	7.3	0.3	0.4	0.4
b. 学生の基礎学力・学習意欲の向上	57.8	40.8	1.2	0.2	0.2
c. 教員の授業負担の軽減	35.3	50.4	13.1	0.7	0.4
d. 就職支援の向上	28.9	57.1	11.9	1.5	0.6
e. 資格取得のカリキュラムを充実させる	22.7	54.9	19.6	1.8	1.1
f. 不要な会議を整理する。	48.7	39.2	9.9	0.3	1.8
g. 実績評価によって教員の昇給を行う。	27.1	43.1	21.0	3.1	5.6
h. 研究水準の向上	34.2	52.1	10.4	0.7	2.7
i. 教員のモチベーションを高める研究費の配分	30.8	46.4	17.8	1.2	3.8

4. ご自身についてお聞きします。

問 17. 専門分野は、下のどれに区分されますか。該当する番号に一つ○をつけてください。

1. 人文科学 10.5	6. 数物系科学 1.1	11. 農学 1.5	16. 芸術・デザイン 6.7
2. 法学・政治学 1.1	7. 化学 0.2	12. 医・歯・薬学 7.9	17. 情報 1.4
3. 経済学・経営学 5.9	8. 生物学 0.3	13. 看護学 7.7	18. その他 7.3 下に記入してください
4. 社会学・心理学 9.8	9. 地学 0.0	14. 食健康科学 9.4	スポーツ科学など
5. 教育学・保育学 24.3	10. 工学 1.7	15. 生活科学 3.1	

問 18. ご所属の短大の設置者についてお聞きします。○は一つ。

設置区分	1. 私立	2. 公立
	89.1	10.9

問 19 共学・女子校の区分についてお聞きします。○は一つ。

学生区分	1. 共学	2. 女子
	74.8	25.2

問 20. 年齢、性別、職階、任期、最終学位、勤務年数、経験した職種、留学経験、ご家族について差し支えない範囲で、お答え下さい。○は一つずつ。

a. 年齢	20・30歳代 11.4%	40歳代 26.9%	50歳代 29.4%	60歳代以上 32.4%	
b. 性別	女性 54.5%	男性 45.5%			
c. 職階	教授 41.5%	准教授 28.4%	講師 19.2%	助教 10.6%	
d. 任期	任期なし 68%	任期あり 更新可能 26.5	任期あり 更新不可 5.5%		
e. 最終学位	博士 (PhD) 26.4%	修士 52.2%	学士 17.3%	その他 4.1%	
f. 現在の勤務先での勤務年数	10年未満 57.8%	10～19年 25.0%	20～29年 10.6%	30年以上 6.7%	
g. 大学教員(助教以上)になった年齢	20歳代 17.1%	30歳代 36.4%	40歳代 24.3%	50歳代以上 22.2	
h. 短大以外での実務経験 (いくつでも○)	なし 17.6%	学校・病院 60.2%	企業 22.1%	官庁・役所 13.7%	研究所 7.3%
i. 小学生以下の子供と同居している	1. はい 18.9%	2. いいえ 81.1%			

問 21. 今後の短期大学のあり方について、ご意見を自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒 (切手不要) にてご返送ください。

—自由記述—

(性、年齢、専門分野、設置者、職階)

1	<p>定員割れ、経営状況の悪い短大については統廃合が必須。それができないなら一案として実習等→各短大講義→コンソーシアム化して同一コンテンツを web 配信で人件費を削減。 (男性、50 歳代、食健康科学、私立、講師)</p>
2	<p>効果的・効率的な授業カリキュラムの早急な構築 教員の学校事務作業の軽減 事務職の方の授業準備・学生指導の負荷への理解 (男性、50 歳代、経済学・経営学、私立、講師)</p>
3	<p>今の短期大学は、「職業又は实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができるとしている要素と、後発で創設された専修学校（専門学校）制度や専門職大学制度などとの整合性が整理されておらず、埋没させられていると考える。そして、審議会の議論などを見ても、短期大学はほとんど念頭に置かれていないと思わざるを得ない。 しかし、これから少子高齢化の進行によって国力が萎縮していくことが想定される中で、短い期間でその分安価な学費で、初等中等教育とは違った学問や知性の一端に触れることができ、私たちの社会の民度や成熟度の底上げにも貢献できる可能性を、短期大学は持っていると考え。政府が積極的に短期大学の在り方にコミットして、この貴重な知的資産を活用する方法を検討する必要がある。(男性、50 歳代、教育学・保育学、私立、教授)</p>
4	<p>高大、産学連携により、高校から社会までの実りある通過点として特色を打ち出していくことが大切だと考える。(女性、40 歳代、教養・キャリア、私立、准教授)</p>
5	<p>学生の質が悪く、自分たちの主張を中心に物事を進める傾向にある。看護という人に対応する職業であるにも関わらず、人を攻撃する暴力的な言動を言い、教員たちを悩まし、どうせ閉校になるからどんなに試験で悪い点をとっても卒業させてくれると学年の LINE で共通理解している。教員が人に対応する職業であることを言えば、「うるさい」「もうききたくない」と非難する。教員たちはもう関わりたくなくなり、見て見ぬふりをする→これは教育ですか？ 偏差値では語れませんが、偏差値が低いことで、性格が歪んだのか、歪ませたのか？ (女性、50 歳代、看護学、公立、教授)</p>
6	<p>補助金や評価に関する事務作業、委員会等の業務や会議が多すぎて肝心の教育や研究にかける時間が少なすぎます。結局この分はほぼ残業で補っています。教育の質を上げるなら上記のような方法以外ないのでしょうか？と言いたくなります。短期大学で少ない年数で効率良く教育をしていくのであれば、それなりの時間確保の方法が必要と考えます。 (女性、40 歳代、看護学、私立、講師)</p>
7	<p>四年制大学及び専門学校との違いの明確化。 資格取得を柱にした教育の充実。 人口減少への対応(社会全体の課題)。 地域との連携(施設、産業、役所等)。 広報の改善(SNS の活用等)。(男性、60 歳以上、人文科学、私立、教授)</p>

8	<p>保育者養成については今後も社会の要請に応じていく必要があると考えているが、志願者源が続くと養成自体が立ちゆかなくなる。本学四大でも保育者養成をしているが、道内経済の実情から短期での資格取得は親にとっても魅力があると考えている。専門学校で青田刈りと養成教育の質の低下が地域にとって悩ましい。(男性、60歳以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
9	<p>本学は地方短大であり、まだ定員確保できていますが、定員割れは時間の問題だと思います。私自身は、研究者ではなく、現場あがりなので、自分が経験してきたことを学生に伝えるのは、そう難しいことではなく、むしろやりがいを感じていますが、時代のニーズに合わせて、短大→四大に整備していくことは必至のことかと思えます。 (女性、40歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
10	<p>教員の研究意欲につながる人員、研究費の配慮し、教育環境としての質の保障を要望する。(教員の専門性を生かした環境作り。雑務に追われる日々のスタッフが多い。) (女性、60歳以上、看護学、私立、教授)</p>
11	<p>専門学校とは入試時期、学費の点で対立し、短大が不利になっている。高校で短大への流れを作ってもらえるかが入学者増のポイントになる。(女性、40歳代、人文科学、私立、講師)</p>
12	<p>ある分野では4年生大学化が進み、徐々に減少してきている。教育レベルを考えると、4年生以上(修士教育が望ましい)と考えている。 (男性、50歳代、保健・医療、私立、教授)</p>
13	<p>少子化の影響で定員確保が難しい状況になってきた。定員の見直しをしつつ、いかにして本学の魅力を後方して貴重な志願を集めるかが喫緊の課題です。一方で、入学者の質の低下も気になります。これらについて、時間をかけて学内で検討しても、現実的に地方にあっては厳しい状況に変わりがないのではとも思っています。 (男性、60歳以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
14	<p>短大は小規模校が多く、いわゆる一族経営であるところも多く見られる。本学のように、それが原因で大学改革に向けた多様な意見が一般教職員から出せないような環境もある。認証評価制度が本来のチェック機能を発揮し、短大であっても大学として教育と研究が両立していくように厳しく経営者を監督してほしい。 (男性、40歳代、社会学・心理学、私立、准教授)</p>
15	<p>研究をするようにいわれているが、研究をする時間がない。授業と委員会に追われている。又、学内の教員間でのトラブルも多く、その相談に乗ったりするのに時間を取られてしまう。 (女性、60歳以上、看護学、私立、教授)</p>
16	<p>短期大学は高校生の進路先として視野に入らない状況に危機感を覚えます。学生の質が変化(低下)し、これまでの教育方法、指導が通用しなくなっている状況で、次の一手が見つかりません。短期大学そのものが維持できなくなるのではと考えています。 (男性、50歳代、教育学・保育学、私立、教授)</p>
17	<p>本学科(教育・保育)は学生募集に苦勞してはいるが、現地点では社会情勢やニーズ等により短大としての存在価値、役割はまだあると考えている。 (女性、60歳代以上、芸術・デザイン、私立、教授)</p>

18	<p>学生の在学期間の短さが、浅い学びと受け取られるのではなく、深い学び、先の人生への学びの入口となるような教育機関、研究機関とするべきだと思う。</p> <p>(女性、50歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
19	<p>地域の特性に合った学びを提供できている一部の短大以外はもう役割を終えたと思われるのではないのでしょうか？</p> <p>2年間でどれだけのことを提供できるのかをしっかりと伝えられる学校が残っていくのだと思います。(女性、40歳以上、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
20	<p>幼稚園で実績をもつ者が、同時論文を書くことはそもそも難しいのでは？自身、33歳の時に自力で働きながら論文(のようなもの)を書いていたのはそういった環境があったから(経営者)。</p> <p>自力で実績をもつ者で優秀な方は多くいるが、大学教員にはなれない。</p> <p>(男性、40歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
21	<p>短期大学としての役割もあると思います。私の場合は「看護」という分野で大学(4年)の移行が大きな流れとなっているので、その中でどのように考えていくが必要になどかと思えます。(男性、20・30歳代、看護学、私立、助教)</p>
22	<p>専門学校との差別化を図り、四大より短期集中で資格を得て就職に結びつくなどの利点をPRしていく必要性を感じつつも、短大の存在意義を実感できない日々です。地域に根ざしたかなり特別な取組をしていかなければ短大の生き残りは厳しいと思います。高校の教員も四大進学をすすめてますし、全員四大に進学するのがあたりまえの高校も多くなっている中で「短大の選択肢はない」とはっきり言われることもあります。</p> <p>(女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
23	<p>現在、IR業務の見直しを検討しており、学習成果の可視化をベースとした内部質保証の更なる充実に向けたPDCAサイクルの構築を最優先として考えている。職員ではアンケート処理を自動で分析できる体制作り(R. Tableau や Google Data Portal, Power BI 等)のスキル学習する環境を目指し、教員側では授業改善に向けたFD研修を行い、より魅力ある短大作りを行っていききたい。(女性、50歳代、ビジネス実務、私立、教授)</p>
24	<p>公的助成の飛躍的拡大(授業料無償化)を行わないと持たないと考えている。</p> <p>(女性、60歳代以上、経済学・経営学、私立、准教授)</p>
25	<p>資格取得がより取れるように 四年制大学への接続強化 短期大学学生への補助金を増加</p> <p>(男性、60歳代以上、数物系科学、私立、講師)</p>
26	<p>少子高齢化が進む社会において、看護系短大では四年制看護大学への進学志願者が多い。よって将来的には四年制への再編が望むところである。しかし、短大組織幹部の方針との間にギャップがあると感じており、前途多難である。短大運営、利益中心の考えを持つ事務職員が中心となり、教員の上に立ち、事務的業務をも行わせ、教員を駒のように扱う。これらの幹部が変化しないかぎり、多難は続くと思われる。</p> <p>(女性、60歳代、看護学、私立、准教授)</p>

27	短期大学は近い将来、大半がスクラップされることは不可避である。18歳人口の減少をはじめとした外部要因はもちろんだが、専任教員の大半がほとんど研究を行わず、最終学位が学資である者が教授となっている現状では、高等教育機関としての存在意義が全くないと言わざるを得ない。(男性、40歳代、経済学・経営学、私立、准教授)
28	医療系国家試験は4年間でしっかりと学ぶべきと思います。国家資格ではない学科や、カリキュラムが窮屈でなければ短大教育の必要性を感じます。 (男性、20・30歳代、医・歯・薬学、私立、講師)
29	短期大学は、経済的に事情のある学生、四年生大学の受験で不本意だった学生、さまざまな学生が入学します。また、地域との関わりも非常に求められています。短期大学だけで学生・地域のすべての期待ニーズに応えることは難しくなっています。地域や併設の四年制大学、あるいは中学・高校との連携、またそれを効率的、継続的に運営していく体制づくりが重要ではないかと考えています。(男性、40歳代、経済学・経営学、公立、准教授)
30	補助金頼みの大学運営を強いられており、そのために割く時間・労力が大きく、本来の教育がおざなりになっている。その教育政策における支援も、すぐ役立つ(軍事利用も含め)目先の結果重視の傾向が垣間見え、その結果として学生は学問追求行動変容に繋がる学びが十分できない。補助制度の在り方を「知を磨く」「教育は国家百年の大計」の理念を重視したものに変えてほしい。少子化に伴う大学・短大の淘汰は、ある程度しかたないが、格差等で基礎学力が不十分、学ぶ楽しさを知らない若者に専門的、教養的教育を受ける機会としての役割は持ちたい。ただ、「教員と学生の近さ」に関して、多くの教育現場で、甘やかし、過保護という形に変換されている。人を育てる教育とは何かを再認識する必要がある。教員、学校が多すぎる。中学生レベルの教育では恥ずかしい。(女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、講師)
31	経営陣と教職員との人的交流を豊かにし、既得権益をしだいになくしていく事が望ましい。 (男性、60歳代以上、芸術・デザイン、私立、助教)
32	4年制大学との“違い”を明確に、共存共栄できることが望ましい在り方だと考えております。 (男性、20・30歳代、教育学・保育学、私立、講師)
33	看護系短大の場合、専門学校との差別(区別)があいまいな部分がある。比較的入りやすいとイメージを持たれやすいので、学力の低い学生が集ってくることが課題である。短期大学の存在意義を考えてゆく必要があると思う。(女性、60歳代以上、看護学、私立、講師)
34	大学や専門学校との明確なすみ分けが大切になる。大学編入を推進する役割も短大にはありそうに思う。(男性、60歳代以上、経済学・経営学、私立、教授)
35	名門青山学院女子短期大学が2019年に学生募集を停止しました。大学全入時代に突入し、ある程度の世帯収入がある家庭では、強い進学意識がなくても『とりあえず4年制大学へ』というケースが多く見受けられる。一方、世帯収入が少ない家庭や勉強が苦手な生徒は安易に『自宅から通学できる専門学校でいい』というケースが目立つ。つまり、『短期大学という選択肢はない』厳しい状況におかれています。また、大学認証評価などにおいては、それにかかるマンパワーも含めて、総合大学など規模の大きな大学が有利と感じています。近い将来、短期大学は、四年制化(系列校に統合されれば良いが・・・)やコストを抑えた専門学校化、または閉校のいずれかを選択しなければいけないと思います。(男性、50歳代、工学、私立、准教授)

36	<p>短期大学のあり方については課題や論点が多い。短期大学のあり方に限らず日本の高等教育のあり方自体に課題は山積している。更に、18才人口の減少はこの議論に拍車をかける。日本の高等教育の制度として短期大学は埋もれてしまい、社会的必要性は限定的であり、短期大学に進学を希望する学生は限定的であり、高等教育への進学率も想定を下回っている。教員を取り回く環境も大きく変化し、教育・研究ばかりでなく地域貢献の必要性は高まり、認証評価の評価員として期待もされて自己管理やスケジュール管理をしなければならなくなっている。 (男性、60歳代以上、人文科学、私立、教授)</p>
37	<p>ここ数年、学生数の減少が顕著に表れており、危機感を感じております。学生が希望する短期大学について日々模索していますが、解決の糸口がつかめず、職員や若い世代の特に後輩職員らのモチベーションが下がる一方です。入試方式や入学試験の時期も少なからず、影響があるのでは、と考えております。他の大学の現状や対策等について興味があります。 (女性、20・30歳代、食健康科学、私立、助教)</p>
38	<p>教員もそうだが、保育士、幼稚園教諭の責任は重くなっていく一方で、給与や待遇があまり良くない。社会に必要とされる人材でありながら軽んじられている感がとてもある。真面目に人材を育成している短期大学が、馬鹿を見ないようにして欲しい。画一的な基準(総合大学とは違う、小さい規模の大学向けの基準を設ける)だけでなく、評価を進めて欲しい。 (男性、50歳代、体育学、私立、教授)</p>
39	<p>学生確保のために専門学校や職業訓練校化していく流れになっていっていないかと気にしています。体験重視や資格取得、就職率だけではなく、学生の自主的な学びを支援し、学生自身が自分の研究に向き合える環境を守っていかねばと思っています。大学・短大・専門それぞれに魅力があるので、短大ならではのブランディングをしないと、「だったら大学・専門がいい」ということになりかねないかと危惧しています。 (女性、20・30歳代、芸術・デザイン、公立、助教)</p>
40	<p>これからの日本を支え発展していく産業を見極め、そのために必要な能力を精選し、その能力育成に特化した魅力あるカリキュラム作りが重要 (男性、60歳代以上、数物系科学、私立、教授)</p>
41	<p>短期大学の存在意義があるかどうか。短大が創設された時代に期待された目的は、現在はもはや無くなったと考える。(女性、50歳代、医・歯・薬学、公立、教授)</p>
42	<p>現在の短期大学部は、いかに学生を就職させるかに主眼が置かれており、教員自身の研究・教育の質の向上や研鑽の時間よりも、学生の指導が主になりがちである。そうなると、大学としての教育の質の向上も難しくなっていくと考えている。その改善も課題である。また、一方で生涯学習の一環として「学び直し」の機会を求めている人たちもいる。そういう人々にも門を広げ、学ぶことの楽しさを共有できる場として存続できるのではないだろうか。 (女性、20・30歳代、経済学・経営学、公立、講師)</p>
43	<p>地方には、働く人材として短大卒(地方の)も役割を担う。地元で必要とされる人材を育てる教育機関として、2年間という短期間の教育について、効率とその実情をふまえ検討していくことが重要であると考えている。(女性、50歳代、経済学・経営学、私立、准教授)</p>

44	<p>短大卒は就職で若干苦勞する。ゼミ生が短大卒の求人の少なさを嘆いていた。外部委員から長期のインターンシップの導入があるとよいのでは、と言われたが、短大にそんな時間が確保できる訳がない。(女性、40歳代、経済学・経営学、公立、准教授)</p>
45	<p>社会の二極化格差が短大学生に与える影響の大きさだからこそ短大の存在価値もあると思います。短大→大学へ移行するならば4年制大学がもっとしっかり教育する姿勢があれば…それもあまり感じられない(地方の私大、国公立)。(男性、50歳代、教育学・保育学、私立、教授)</p>
46	<p>18才人口も減少し、4大志向も強く、専修学校との差別化は資格課程があっても厳しい。また、2年間では、大学らしい学び(教養・専門)を得る時間が短すぎる。学費を考えると簡単に留年させにくい(4大は再履修の余裕がある)。理想的には短大の4大化が望ましいが、現実的には、コミュニティカレッジ化して社会人やシニアと若者が混在して学び合うのが、若者にも社会人にもメリットが出やすいと思う。 (男性、40歳代、社会学・心理学、私立、講師)</p>
47	<p>短大は昭和末期に作られた所が多く、良くも悪くもその時代の文化を残し、教員陣も高齢化している所が多い。本来、生き残りのために大学以上の改革が求められるが、教員の高齢化が足を引っ張っている。”教育重視”が単なる教員の自己満足でしかなく、学生のメリットにつながないのが、学生数減少の要因と思う。 (男性、40歳代、人文科学、私立、講師)</p>
48	<p>18歳人口の減少と専門学校の充実と共に、短期大学の役割は終わりつつあるのが現状である。この現実を直視し、目の前の教育格差や、短期大学創設の根拠となった様々な不平等の更なる是正のために、短期大学全般を四年制大学にし、教育研究の深化を行うことが望ましい。 (女性、50歳代、法学・政治学、公立、教授)</p>
49	<p>短大、とりわけ女子短大の将来像は地域によって大きく異なるように感じる。全体的に4年生大学志向が高まっているが、短大需要の多い地方もあり続けており、その転換の見きわめが重要に思う。現場の教育努力を活かす大学運営、地方自治体の支援者に期待したい。 (男性、60歳代以上、人文科学、私立、教授)</p>
50	<p>短大はこれから少子化などの影響できびしい状況になるとは思いますが、資格や地域貢献の充実など、付加価値が増えれば生き残れる気もします。 (男性、60歳代以上、芸術・デザイン、私立、教授)</p>
51	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化における入学者の減少が学校運営に影響すると思う。 ・学生のメンタルの問題、向学心の差、年令(社会入学生増のため)、ハラスメントにならないような教育の方法の共通理解が必要。短大で栄養士の資格を取得するには授業数が足りないと思う(現場で即戦力になる教育が必要だと思う)。 <p>(女性、60歳代以上、食健康科学、私立、講師)</p>
52	<p>学生支援を教員だけでなく、学科スタッフ(事務)を入れて、指導、研究は教員、それ以外は教員以外と分担すべきである。教職員の負担がへると、よりよく教育研究指導ができると思う。 (小・中学校は特に・・・(字が読めない)としてしていますので、それにならうべきである)。(女性、50歳代、社会学・心理学、私立、教授)</p>

53	<p>専門職の養成のみならず、地位向上に関しても発言をしていく必要があると考える。次世代以降を担う若者たちが専門職に対して魅力を感じられるように現場と連携しつつ広く世間にアピールをしていくことが求められているのではないかと。それ故、業界団体だけでなく国や政府に対して短期大学としてまとめて専門職の地位向上を訴えていくことも必要である。 (組織によって養成、質の部分で差があることがネックとなっているようにも感じられる。) (男性、40歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
54	<p>県内唯一の短大として、私学といえども公共の役割を強く担っています。地域の将来を担う人を育てる点で、教育上の使命は大きいわけですが、教育力向上のための研究の発展も重要です。小規模私学ゆえ運営業務負担大きく、研究時間の確保が課題です。4年制大学を前提としたかのような補助金要件にふり回されることもあり、地方・私学・短大の社会的意義の認知を高めたい。(男性、40歳代、社会学・心理学、私立、准教授)</p>
55	<p>本学ばかりのことではないと思うが、基礎学力は低いがけっして能力が低いわけではない学生が一定数以上かは入学してくる。いかにして強みを伸ばして成長させて社会に出すのか、というのが学校の一つとして挙げられると考えている。 また、社会人の新たな資格取得、・・・(字が読めない)の場としてアピールしていくことが生き残る道であり、“短期”大学の強みとも思う。 (女性、50歳代、人文科学、私立、准教授)</p>
56	<p>四年制に改組すべきだと思います。短期大学で資格取得する保育士や幼稚園教諭などの社会的地位がアップしないのは短大での養成をよしとしているからだだと思います。栄養士のカリキュラムと栄養管理士のカリキュラムもその差の32単位は、実務経験で得られるものではないと考えています。地域密着型の短大は、そこを変えるのが難しいのだと感じています。 (女性、60歳代以上、食健康科学、私立、教授)</p>
57	<p>単純に2年制であることから、経済的な事情により4年制大学ではなく短大を選択する層もいます。その学生たちは学力もある程度あり(4年制のやる気のない学生より高いこともある)、意欲もあり、よい実践者となって社会に出ます。しかし近年、学力や意欲のない学生の増加により授業が成り立たなくなり、学力のある学生をのぼすことができなくなって、そういう学生の受け皿となりにくくなっていると思います。経済的事情のある短大選択者にしっかりと教育できる環境を維持したいが難しい。(女性、40歳代、社会学・心理学、私立、准教授)</p>
58	<p>多くの工学系の短大は、その役目に終わりを迎えていると考えます。本学のような自動車整備を主体とした短大では、急速な技術の進歩から、2年間の教育課程では教えきれなくなって来ている。また多くの保護者からは、子供を4年制大学へ進学させたいとも聞きますし、就職に関しても四大卒整備士は不要とも言われてきましたが、ここ数年での急激な少子化の影響から四大卒整備士の自動車ディーラーへの就職が可能となった事もその要因の一つです。 (男性、50歳代、工学、私立、准教授)</p>
59	<p>専門性を高める(質)と専門職の数を増やす(量)との議題が短大と4年制大学の問題として扱われることにご心配があります。 短大卒は質が低い、4年制卒は質が高いというステレオタイプの考えを省庁でももっておられるイメージがあります。(女性、50・30歳代、教育学・心理学、公立、教授)</p>

60	<p>教員の教育への思いや、授業への熱量が低い。また、研究を行い、地域への還元、学生指導に活かすことが出来ない教員が多くみられる。四大のように、積極的に動ける人材が必要である。(男性、20・30歳代、食健康科学、私立、助教)</p>
61	<p>専門学校との差別化(を図り)→短期大学の存在意義(を持たせる) (男性、60歳代以上、芸術・デザイン、私立、教授)</p>
62	<p>現在の短大のメリットは、経済的負担の軽減のみである。4年制大学と統合し、短期大学部として存続する方が、教員負担、学生の教育環境の充実の面から有効であると考えます。 (男性、40歳代、芸術・デザイン、公立、准教授)</p>
63	<p>中等教育の不足を補い、社会人としての一人立ちを促す場所(それを必要とする者に対する受け皿)。(男性、60歳代以上、人文科学、私立、教授)</p>
64	<p>地域に貢献できる医療従事者の育成が本学の役割と考えていますが、専門学校や大学でも同じような役割をもっているため、本学の今後のあり方とは?と考えてしまいます。地域と協働する何か、を考えていきたいと思っはいますが、入学者の確保や学生の学力低下といった課題への対応で手一杯という現状です(女性、50歳代、看護学、私立、教授)。</p>
65	<p>経済的に四年制はむずかしい、という家庭の進学者をターゲットにしていくというのもひとつのやり方かと思えます。(男性、60歳代以上、人文科学、私立、教授)</p>
66	<p>公立短大だが、定員が割れてしまった。今後、どのように学生募集を行うのかかなり困難にも思える。(男性、50歳代、経済学・経営学、公立、教授)</p>
67	<p>地方の短期大学はそれぞれ地域の発展に大きく寄与してきた歴史を持つ。その存在意義が、今大きくゆらいでいる。少子化はもとより、就学支援制度による四大志向や県外大都市への流出、コロナによる英語科の魅力(CAやエアライン関係職、留学etc)の喪失など大打撃を受けている。学生確保の戦略が大課題である。(男性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
68	<p>学生達の現状を見ていて、「大学」とは何なのか考えてしまう。高校卒業後、入学前課題と称して「春休みの宿題(漢字、言葉のつかい方)など」をしなければならぬ現状。実習先で、基礎的な生活力(あいさつ、時間を守る、etc)などをひたすら注意される現実。それでも短大は、1人ひとりと付き合い、何とか資格や免許を出しているような状態。2年間「ぬるま湯」で甘やかされて過ごすなら高卒で社会に出てきたえられた方が本人の為では…と思えるケースがたくさんある。「大学」は本来、学びを自ら深める場であり、「面倒を見てもらう」場所ではないはずだが、大学教員2年目にして、「大学」って何なのか疑問に思えて来た。 (女性、20・30歳代、教育学・保育学、私立、助教)</p>
69	<p>修学期間が短期であることにメリットを感じて入学する学生がいる限り、存在意義はあると思う。 運営する側の教員は、四年制大学勤務に比べて研究時間がとりにくい。教育重視の傾向から、研究時間を考慮されない体制となってしまう。このままだと、教員の質を向上させるのが難しい。(女性、50歳代以上、看護学、私立、教授)</p>

70	<p>新設校に所属しており、他の短大、大学に所属した経験がないので何とも言えないですが、経営側の無理解に愕然、絶望することが多々あります。研究者としてステップUPする為の、時間的、人的サポートの充実は、実際は望めないのが、個々多忙な教育活動の中で身をすりへらしているのが現状です。</p> <p>コロナ禍の学生、教育活動(実習含む)への労力もかなり大きいです。</p> <p>(女性、40歳代、看護学、私立、助教)</p>
71	<p>私学に関しては、同族(的)経営が制限される必要があると考えます。</p> <p>また、短大をどうするか以上に地方の衰退をどうするかが重大な問題かと考えます(問14)</p> <p>(男性、50歳代、社会学・心理学、私立、准教授)</p>
72	<p>入学者の定員割れに加えて、退学する学生が続いている。学力の低い学生にも入学してもらわないと、経営が継続できず、入学試験の基準である高校の評定を下げざるを得ない状況。また、教員同士の信頼がなく、学生を指咻して、他の教員や学科運営を害している。経営・運営を担う側と教員が4年生大学にはない魅力を真剣に考えることが必要だが、双方ともに、役職に就いている人々の高齢化で、改革案を打ち出すエネルギーが不足している。</p> <p>(女性、50歳代、看護学、私立、講師)</p>
73	<p>展望として明るい未来が描けない。生き残るのが精一杯という感じ。このままでは四年制大学、専門学校に学生が流れていくので、何か特色ある機関としての位置づけ(社会的に認知される存在価値)を追究したい。(男性、60歳代以上、人文科学、私立、教授)</p>
74	<p>現在、短大の教員ですが、併設大学も含めた学生支援センター長を兼務しています。大学、短大の教員は、学内の委員会、会議が多々あり、色々大変かと思えます。現在所属の短大部の学科は今年4月入学で募集停止、4年制へ移行予定です。</p> <p>(男性、50歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
75	<p>地域連携が重要</p> <p>(男性、60歳代以上、食健康科学、私立、教授)</p>
76	<p>地域の中で活躍でき、人としてあたたかい心を持った人材を育成したいと考えております。2年間の短時間の中に学ぶべき事がきちっと習得できる学習内容を学生に提供できる様にしたいと考えております。教員も自分の経験と能力を評価してもらう事で日頃の教育と研究に力を注ぐ事もできると思っておりますのでその様な環境が望ましいと思っております。又、私は日頃同じ意思や志を持つ教員の仲間に助けをもらい、質の高い教員を目指す事ができている事は、これからの短期大学のあり方にもつながると思えます。</p> <p>(女性、50歳代、教育学・保育学、私立、助教)</p>
77	<p>看護短大は教員の不足とカリキュラムの量がミスマッチで、個人の仕事量は大きく負担となっていますが、個人が楽しみながら行えているのか否かでモチベーション精神的負担感が変わると思えます。(女性、60歳代以上、看護学、私立、准教授)</p>
78	<p>ニッチな社会的なニーズに応える学校としての存在意義はこれからも変わらないと考えている。(女性、60歳代以上、体育学、私立、教授)</p>

79	<p>看護短大はどうしようもないです。 教育力も低い、研究もしていない、管理力もない、人材育成もしていない。 そんな教育と、准教授ばかりです。もうやめます。 (女性、50歳代、看護学、私立、講師)</p>
80	<p>短期大学の使命がどこにあるのか2年間で教育できるキャパと内容について精査していく必要性を感じる。高校生いや子どもが減少する中で定員の確保が増々難しくなっていくだろう。いつまで持ちこたえられるか喫緊の課題である。 (女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
81	<p>本学について、少子化が深刻になってくる地域であるにもかかわらず、将来を見通した運営ができていないように思う。 短大の良さもあり、残して行きたいと考える。4年制に経済的理由や学力面でアクセスできない学生にとって必要性はあると思う。 (女性、60歳代以上、社会学・心理学、私立、准教授)</p>
82	<p>少子化が大きな問題になっていることは否めないが、地域に貢献してきた短大の力が弱まっていると感じている。ミニ四大ではなく、個性ある2年間の取組みが求められているように感じる。経済的弱者、偏差値的弱者が進学する場所ではなく、もっと地域に根ざした特色ある教育ができるといいと思っている。(女性、60歳代以上、食健康科学、私立、准教授)</p>
83	<p>今後、少子化が進み、学生の確保が難しくなっていくと考えられる。そのため、さらに地域の一般の社会人のための学びの場となるよう学科での科目の見直しや、教員の社会貢献等考えていかなければならないと感じている。(女性、50歳代、芸術・デザイン、私立、講師)</p>
84	<p>短大には短大にない少人数や地域密着などの良さがあると考えています。入学生は、経済的に恵まれない、地元に残りたい(残らざるを得ない)、何となくやりたいことがある、編入学を目指したい、地元企業へ就職したいなどの希望をもって入学してきます。しかし企業は、明らかに四大卒を採用したいと考えています。このギャップは埋まらないですし、採用していただいても、統計にも現れているように短大卒は長続きしません。給与にや仕事内容の面、人間関係といった理由が大きいです。 短大の教育や研究をみても、今後生き残っていけるのか不安です。着任後にカリキュラムの大幅な変更とともに授業数は増加し、事務仕事も増えています。学生から進路や生活などの相談も多く受けます。研究業績を求められますが、まず何より研究に取り組む時間がありません。要求しても確保してくれませんが、研究ができないから授業も疎かになっています。学生には多様な視点をもってほしいですし、研究時間を確保したいので非常勤のお願いをしても予算の関係でできないと言われます。管理職など上の人たちは本当の意味での危機感がありません。入学定員の充足、そして設置者や文部科学省にお膳立てすれば良いという考えでいます。教員の働き方をみている学生からは逆に心配され「ブラック大学ですね」と言われる始末です。大学改革の下では小規模な短大が生き残ることは無理です。大規模な四大に併せた改革は、確実に地方の小規模短大を潰すと思います。短大が厳しいのは、単に18歳未満人口の減少や社会構造の変化だけではないと思います。文部科学省は、短大の現場を見ずに机上の理論で物を言わないでほしいという怒りを持っています。 今後を考えたとき、短大にはとにかく希望がないなあというのが本音ですね。所属する短大特有の問題なのかもしれませんが...</p> <p>(男性、20・30歳代、経済学・経営学、公立、講師)</p>

85	<p>短大は地域の中で存続すべき場所だと考えています。とくに保育系短大の就職先は地域の幼稚園、保育所がメインです。地域の中で人材が育っていくとサイクルに短期大学は欠くことのできない存在となるよう、所属短大でも教職員として力をあわせ努力をしています。それに対する公的支援についても期待します。(男性、40歳代、芸術・デザイン、私立、教授)</p>
86	<p>多くの短期大学が地元志向であるため、地域を限定しないでグローバルに学生募集が行えるブランドが必要ではないかと考える。しかし、実情はブランドを育成させる資金がもたないし、地域とのしがらみも整理されにくい。創学のきっかけが好教育であるということも、今の時代においては足枷となっている。</p> <p>また、短大において教員の研究時間の捻出は難しい。たった2年で社会に学生を送り出すということを考えれば、教育・指導に力を注ぐことに必然的になってしまう。</p> <p>(女性、60歳代以上、経済学・経営学、私立、准教授)</p>
87	<p>国家資格取得をめざす短期大学以外の短大は、今後不要になってくるのではないかと考える。(保育系、栄養系、看護系、教育系以外の学科は不要。特に事務職を要請するなどのビジネス系短大は不要)。(女性、50歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
88	<p>私たち教員が、学生が何故短大に進学するのかについて認識を共有することが大切だと思います。短大は、大学(教育と研究)という特性を持ちながら、資格取得を目指す専門学校的機能を持っています。また教育施設・設備が充実しているところは誇れる点でもあり、学生の満足度は高いと思います。(女性、60歳代以上、看護学、私立、講師)</p>
89	<p>創立40年を迎え、施設環境の更新が必要な所もあるが、予算もなく直しながら使っている。あと10年、20年…とは難しいであろう。教育が中心の大学で、同学科の他教員の研究に対するモチベーションが低い。古い知見を更新せずに学生に伝えているため、教育の質も上がらない。(男性、20・30歳代、社会学・心理学、私立、助教)</p>
90	<p>専門職への就職率の高さなど、地方の短期大学の重要性をアピールし、地域と共に歩むあり方で良いと思う。(男性、40歳代、芸術・デザイン、私立、教授)</p>
91	<p>学園組織トップの能力次第！目先の金が使われることばかりに気を向け、先を見越した改革をする勇気と責任感のないトップ(理事長、事務局長、学長)では、組織が絶対良くならないし、変わらない。どうしてトップはこれほど責任のがれと、ケツの穴が小さい奴らになるのだろうか???(男性、60歳代以上、生活科学、私立、教授)</p>
92	<p>東京、首都圏では数が多すぎて学生の取り合いになっているため適切な数になれば、適切な学生が入学するようになると思います。(男性、40歳代、人文科学、私立、講師)</p>
93	<p>問14について、経済格差の影響もあるのではないかと考える。</p> <p>少し(2年間)勉強したい、そういう希望を叶えるためにも短大の必要性は十分にあると考える。(不明、40歳代、法学・政治学、公立、准教授)</p>
94	<p>学生が私たち世代でいうところの高校生や中学生のようなメンタリティを持つ学生が増えているように感じる。お互い(学生と教員)、実習施設やインターン先の3者で、常識や考え方の解離が大きく、葛藤が大きい。今後、高校や社会人、大学の連結の部分が大きな課題になるように思われる。(女性、40歳代、社会福祉・精神保健、私立、講師)</p>

95	<p>合理的配慮の必要な学生が多く、Z世代はマイペース(期限を守れない、半期15回の授業の6~7割しか出席しない(欠席した分は個別に補講))なので、今後はオーダーメイド(個別指導)仕様になり、教員の負担が増えるだろう。短期大学という枠にとらわれず、2年制・3年制…8年制といった具合に、年限を自由に選べるようにすればよいのではないか。どんな子どもにも教育や教養は必要だ。日本が国際社会の中で賢く、平和に生きのびるためには、大学卒業程度の教養や学力は必要だ。経済的に自立し、一生食べて生きていけるような人間力をつけさせる機関としての使命を忘れないようにしたいと考えている。</p> <p>(女性、50歳代、人文科学、私立、教授)</p>
96	<p>栄養士資格取得のための短大は2020年に管理栄養士養成校と数が逆転しています。加えて、コロナ禍ということから4大進学を断念せざるを得ない高校生の受入れをすることも1つの種となっている様な気がします。ただこれもここ数年だけでしょう。今後の短期大学のあり方はまた迷走するものと思慮いたします。</p> <p>(男性、60歳代以上、農学、私立、教授)</p>
97	<p>短期大学での限界を感じている。4年制大学へ移行、改組していくことで、教育内容、研究内容の充実がはかれると感じている。(女性、60歳代以上、看護学、私立、教授)</p>
98	<p>4年制大への入学希望などの増加、少子化等、困難な課題は、多々ありますが、短大の存在意義はあると思います。一例として、4年間、修学のモチベーションをもち続ける(続けさせる)ことの困難な学生が一定数いると思われること。修学を終えた時、就職、進学、留学 etc. の多様なルートを案内できるよう、教職員、特に幹部となる意志決定部署の柔軟さが、存続の鍵となるように思います。(女性、50歳代、教育学・保育学、私立、教授)</p>
99	<p>学生の質の向上。卒業要件を明確にし、すんなり卒業をさせない。教員の質の向上。論文の数が増やせる程度。会議の軽減。教員の意見が言える環境。平等な仕事(雑用)分担、質の低下により2年間の教育に限界を感じる。(女性、60歳代以上、食健康科学、私立、教授)</p>
100	<p>専門学校でもなく、大学でもなく、教育方法がどっちつかずである。学生の資質に合わせた教育ができるよう、裁量の範囲が広がるとよい。</p> <p>(女性、60歳代以上、看護学、私立、助教)</p>
101	<p>現場への人材の輩出を支えること。</p> <p>(男性、20歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
102	<p>今後は短期大学を志望する者が減少する中で専門学校とは違う短大の強みや大学での学び、ディプロマを強くもった高等教育が望まれるが、残念ながらそのような教育が実践できる人材がないのが本学のイタイところです。</p> <p>(女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
103	<p>うまく時代に合わせて縮小していくことが必要。</p> <p>生き残り作戦のまずはビジョンが必要。</p> <p>(女性、40歳代、社会学・心理学、私立、准教授)</p>
104	<p>生活全般に関するシンク・タンクとして、地域から必要とされ、支持され、協力される存在でありたい。(女性、60歳代以上、人文科学、私立、教授)</p>

105	<p>入学者数が少なくなっています。特にこども学(保育、教育)の人気は下がっています。私は60才で退職後に短大に来ました。近年ますます子育て支援というワードがTVで出て来ます。その反面、保育現場の事故や保育不適切のニュースが多いです。短期大学で取得できる資格の職業が「あこがれ」のものでないと、入学者数が増えません。日本の少子化問題、出生率の低下の現代においてますます厳しい時代と思います。</p> <p>(女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
106	<p>学生が主体的に考え、行動し、地域に貢献できる人材育成がさらに必要になる。又、夢や目標を持てる学生を育成することも課題である。(女性、40歳代、観光学、私立、教授)</p>
107	<p>障害(主として学力や理解力、コミュニケーション能力に関連する類のもの)を持った学生の入学が増えてきているように感じます。資格取得のガイドラインを含めた指導のバランスについて、本学では対応が遅れているように感じます。今後がさらに心配です。</p> <p>(男性、20・30歳代、芸術・デザイン、私立、講師)</p>
108	<p>短期大学ではあっても、学生の質が大きく変わり、人としての関わり自体が難しく感じることもあり、色々なことにおいて、教員側が配慮しなければならず、教育の質保証の点で不安がある。(全ての学生ではありませんが、年々増えていると感じます。)</p> <p>(女性、50歳代、食健康科学、私立、教授)</p>
109	<p>大学への編入学の基礎を教養する場となる選択肢が広く開けると良いと思う。基礎学力の低さは、義務教育で本来なされるものであると考えるが、その補填を短期大学で行う現状は変革すべき(義務教育で一定の学力を担保すべき)と考える。今後子供の文化や母語が多様になっていく中でこれは喫緊の課題であると考えている。</p> <p>(女性、50歳代、看護学、私立、講師)</p>
110	<p>学力低下、支援が必要な学生が多く、「高等教育」「専門教育」と本当に言えるものなのか、とまどうことがある。学生間の学力の差、技術の差も開きが大きく、指導の焦点も絞りにくいように思っています。業務の負担が大きいこともこれらが一因と思います。</p> <p>(女性、50歳代、食健康科学、私立、准教授)</p>
111	<p>存続は非常に困難であると思います。</p> <p>2年間は特別な資格が取得できるなどの特色があり、貧困家庭、社会人を対象にするなどよほどの売りがないと、または、よほど強く売り出さないとフェードアウトしてしまうと思います。(女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
112	<p>18才人口が減少し、高齢化が進む中、対象を拡大し、働きながら学ぶこと環境づくりを受け入れも1つの方法</p> <p>多様な学生が増加する中教育の質の保障も必要で、教員確保と育成のための取り組みを期待しています。</p> <p>専門学校と短大を比較し、進学に伴い、得られるメリットを明確に伝えられる強みを持たなければならないと思います。卒業後の給与に反映されるとよいのですが。</p> <p>(女性、60歳代以上、食健康科学、私立、教授)</p>
113	<p>学生の確保が最重要課題である。</p> <p>(女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>

114	あと10年で四年制に吸収か専門学校に代替してしまうと思う。 (男性、50歳代、経済学・経営学、私立、教授)
115	来年度から公立化する予定です。公立化により、同大学の志願者数は急増していますが、短大はあまり手ごたえがなく、どうなっていくのか未知な状態です。今の社会状況下で、公立短大の存在意義とは何なのか、考えさせられる毎日です。私としては、つぶれなければ良いのですが・・・(女性、40歳代、社会学・心理学、私立、准教授)
116	富山短大では学生のみならず教職員の質低下も顕著になり始めている。その原因の一つに博士の学位を有する教員が少ないことだと考えられる。今後は博士の学位を有する教員が増えるような短期大学のあり方を考えることも課題として検討する必要がある。 (男性、40歳代、工学、私立、准教授)
117	学生が必要とする教育支援、社会に貢献できる研究、学内での教員への評価、この三つの連動が短大では難しいと感じる。例えば研究が学内で評価されても、実質的な業務、学生に還元できることは直結しないことが多い。どこに重点を置いて仕事をするか悩むし、働きがいも揺れるところだと感じる。(女性、40歳代、社会学・心理学、私立、講師)
118	短大のニーズが低くなっているように感じます。 就職の際の給与は専門学校と同じになることから、短大の学位の価値も低くみられているように感じます。大学と同じにならなくても、せめて専門学校と分けることができたなら、それぞれの学校のちがいが見いだせるようになるかと思います。 (男性、40歳代、スポーツ科学、私立、准教授)
119	近隣の公立化によって学生が激減し、存続が危ぶまれている。このような地域間の競争も厳しいと感じている。又、本学(保育士養成)では退職校長を取りたがり、保育や幼児教育の質が保証できないと感じている。(女性、50歳代、教育学・保育学、私立、准教授)
120	大学教育の一貫として、四年制はデータサイエンスに力を入れ、定員に満たない状況が続いた短期大学部については、令和四年度をもって閉学します。今後は推薦入学者の学力をどう保証するかが大変な課題であると受けとめております。 (男性、60歳代以上、経済学・経営学・教育学・保育学、私立、教授)
121	資格よりも、知識と教養力を持つ学生を育て、自分自身で課題を発見して学びを深められること、様々な体験(失敗も含め)から人生に大切なものを吸収して、自分の成長と自信に結びつけられるよう支援をすること、さらにその学生たちが自分の能力と可能性を自分のためだけに使うのではなく、社会をより良くするために生かせるという人生の生き方の選択をできるように応援することに意義を感じます。(女性、60歳代以上、人文科学、私立、講師)
122	大学生の時間感覚として、2年間は短すぎるように感じる。短大も3年制を基本的修学年数にしたほうが良いように思う。(男性、40歳代、人文科学、私立、准教授)
123	地方都市に住む高校生の地元進学先としての短期大学、生涯学習及び学び直しの場としての社会人の受入、幼稚園教諭など2年間で取得できる免許など (男性、50歳代、情報、私立、准教授)

124	地域に愛され、選ばれ続ける高等教育機関が生き残ると思います。 (男性、20・30歳代、医療、私立、助教)
125	地域密着型短大を卒業しても、実質的な学力という点でいかなものか疑問をもちます。入学時にもきちんとした学力を計らず、音楽・体育などの力と面接、他は高校の時の調査書という、簡単な試験で、内実は小学校高学年が中学生のような学生が入ってきます。入学者の確保第一の短大のやり方に、最前線で学生に対応する教員は疲れています。「質の保証」ができていません。専門学校と短大との差があまり無いかむしろ、短大の方が甘やかしすぎている。ある程度の質を保たないと先は無。なのに、経営側は入学料、授業料にばかり固執して、対応が後手に回っている。(女性、50歳代、人文科学、私立、教授)
126	地域密着型短大を卒業しても、実質的な学力という点でいかなものか疑問をもちます。入学時にもきちんとした学力を計らず、音楽・体育などの力と面接、他は高校の時の調査書という、簡単な試験で、内実は小学校高学年が中学生のような学生が入ってきます。入学者の確保第一の短大のやり方に、最前線で学生に対応する教員は疲れています。「質の保証」ができていません。専門学校と短大との差があまり無いかむしろ、短大の方が甘やかしすぎている。ある程度の質を保たないと先は無。なのに、経営側は入学料、授業料にばかり固執して、対応が後手に回っている。(女性、20・30歳代、食健康科学、私立、助教)
127	研究よりも、教育地域貢献を重視すべき (男性、60歳代以上、経済学・経営学、公立、教授)
128	若手教員が教育・研究に伸び伸び活躍できる環境を作っていく必要があると思います。あまり教育や研究に力を入れていない人にやめてもらうシステムも必要かと思います。 (男性、60歳代以上、経済学・経営学、公立、教授)
129	教員としては、学生のニーズに合わせて授業を展開するため努力してきたが、研究にあてる時間はもてない→短大はどちらかというと学生支援、教育が重視される。4年制大学と学生の質意識が異なるように思う。 又、女子のみの短大が多く、少子化を考えるとすあらに運営が厳しくなると思われる。 (女性、50歳代、食健康科学、私立、教授)
130	大変厳しい状況ではありますが、短大が存在する意義(経済的に困難を抱えている若者にとっての意義、専門より教養を重視している点など)も感じています。 教員としては、授業はもちろんですが、学校運営に関わる業務・分掌の負担が大きいと感じています(昨今、教員で改善を試みてはいますが…)。それによる離職者も続いているため、短大で働くやりがい(4年制ではなく)を感じてますが、負担が軽減されると、そこで働きたいと思っている人が続けられるのではと思っています。 (女性、40歳代、人文科学、私立、准教授)
131	入学者の減少により厳しい状況にある(給与カット、賞与金額未提示、有無も不明)、週12コマ担当、全体的に業務負担が大きい。教職員数減、講習・講座1人担当、教育の質より勤務体制が整わない。 (女性、50歳代、教育学・保育学、私立、講師)

132	<p>高校の延長線のようなところ。 教員もそのような感覚であり、研究者はいない。 早く四年制大学に移ろうと思う。 (女性、20、30歳代、経済学・経営学、私立、講師)</p>
133	<p>2年制大学のメリットを社会として認知してほしい(現在は、4大か専門学校か就職というイメージで、短大のメリットが生かしきれていない)。 (男性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
134	<p>四年制大学かと言って専門学校を志望する訳でもない、つまり明らかな将来計画を持たない学生が少なからず入学しているように見うけられる。見方を変えれば、四大、専門学校には無いものが短大にあると言え、本学のケースを申せば、卒業時は多くの資格も取得し、本命志望の企業・組織への就職を無理している。このことから、短大(2年間で方向性を見出せている)の価値と将来は、失われてはおらず、短大に関する利害関係者の知恵を努力により向上し得ると考えます。(女性、60歳代以上、人文科学、私立、教授)</p>
135	<p>人生百年時代と言われる今日、多様な人生のプランが展開されて行く様になるだろう。その中で、単に職業訓練の延長としての短大という存在理由ではなく、さらにその先の専門教育・研究を見すえた基礎学力の教授と、多様な分野への応用力が可能な視点を育てながら専門分野を究める機会を与える存在、リカレント教育を提供できる存在としての短大へ大きく変化する必要があります。</p>
136	<p>多様なニーズに応じる程、人口減のあおりもあって、益々職務多忙、経営(財政)困難となる大学(短大も含め)は増加すると認識している。全入時代を迎え、専門教育(分野)ごとで入学者数の推移に大きな差が生じはじめていると実感する。 (男性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
137	<p>女子の四年制志向の高まりと専門カリキュラムの充実を考えると短期大学の限界を感じる。 2023年4月より市立化に向け、進めているが、志願者が減少。 公立短大の方が市立短大よりも年制価値は評価されない。特徴もつけ難い。 入口(入学)から出口(卒業)の流れ、さらに卒後の地域、専門分野のつながりを明確に配信したいと考えている。(女性、50歳代、食健康科学、私立、教授)</p>
138	<p>短大そのものというより、基礎自治体における教育保障という観点が重要と思う。 現在、たぶん米国にならない、就学支援制度も充実しているが、米国では、返還できないことが問題となっている。その対応も政党によって異なる。短大の場合、学科によって様々だが、200～300万円程度になるが、地方によっては返済がその所得では難しくなるが、しかし、4大に比べ半分程度である。短期養成即戦力の強みといわゆる借金をかかえずにキャリア形成ができることは、もっと重視されるべきではないか。特に地方の低所得で高卒でなく、短大専門学校への進学ができるようにすることは基礎自治体の教育保障になると思われる。 (男性、60歳代以上、社会学・心理学、私立、教授)</p>
139	<p>少子化に伴う経営悪化、それでも補助を受けるにはある程度整った教育環境が望まれ、それができないとある程度の教育環境を学生へ提供できず、ますます学生数が減っていく。しかし、経済的理由等で県外(都会)4大への進学を断念し入学する学生もいるため、こうした学生たちのためにこの教育の場はなくてははいけないと考えております。 (女性、40歳代、教育学・保育学、私立)</p>

140	<p>学生数の減少により、大学の運営が大変な時代となってきていますが、2年間という短い期間で、しっかりと学べる大学を作っていく必要があると感じています。四年生大学と同じにはいきませんが、教員が研究できる環境を整え、学生にプラスとなるような体制になってほしいと思います。(男性、50歳代、社会学・心理学、私立、准教授)</p>
141	<p>短期大学は、経済的に余裕のない学生が来るように感じます。また学力も低い傾向があるので、国からの経済支援で四年制へ転入できるようにすることで余裕のある学生生活を送れるようになると思っています。 (男性、20・30歳代、人文科学、私立、助教)</p>
142	<p>当短期大学のことを言えば、基本的に女子しか集まらない。 「短大＝女子」、「女子はほどほどの教育で、専門性はあまり必要ない」という古い社会の考え方が強固に残っている。4大化するかむしろ”専門学校”と名のつた方がジェンダー平等の上では良いのではないか？(男子の親は、経済的に苦しくても4大に行かせようとする) (女性、40歳代、生活科学、公立、准教授)</p>
143	<p>短大に限らず、4年制でも語学・国際系の学部・学科は、定員充足が厳しい状況と聞く。それが、コロナ禍の影響で海外志向で無くなっているのか、英語教育改革によるものなのか、それ以外の理由なのか、明確なエビデンスが知りたい。 手探りにオープンキャンパスを増やすだけでは、上記の課題に十分には対応しきれないのではないかと考えている。(男性、20・30歳代、教育学・保育学、私立、講師)</p>
144	<p>短期大学だが、2年間という期間にとらわれずに、単位や資格の取得ができる(留年とはいわず)ようになれば、特性を持っている者や社会人なども入学しやすくなるのではないかとと思われる。(女性、40歳代、人文科学、私立、講師)</p>
145	<p>私自身40才を超えてからの転職だったため、現在の地位まで昇れた事は幸運だったと思っています。短大でありながら科研に複数の課題で採択された事も、周りの方のおかげだと感じます。ただ四大から短大に異動したとき、これほどきびしい環境下で仕事をして体をこわさなければいけない…と思ったものです。好きでなければ努まらない仕事です。(教育も研究も楽しいです)。(女性、60歳代以上、人文科学、私立、教授)</p>
146	<p>保育士、幼稚園教諭、介護士等の給与等の待遇が今以上に良い状態へと変わっていかない限り、短期大学への入学者数も減る一方であると思われる。 国がこういった専門職の重要性を再認識する必要があるのではないか。 (男性、20・30歳代、教育学・保育学・芸術・デザイン、私立、助教)</p>
147	<ul style="list-style-type: none"> ・定員数の見直し。 ・年寄りの教員が多く、若い人に仕事を分配するのはやめてほしいと思っています。 ・年寄り教員がPCを使えないため、PCスキルがある教員の採用をしてほしい。 <p>(女性、20・30歳代、農学、私立、助教)</p>
148	<p>タイパ、コスパが重要視される現在において、短大の価値はもっと高まるべきと考えます。また予測困難な時代で複数の高等教育機関を卒業することの意味は大きいと思います。短大で資格を取得して、四大に編入するなどすることが最も効果的、効率的な人生における学びであることを広く理解してほしいと思っています。(女性、50歳代、農学、私立、教授)</p>

149	<p>年々、教員数が減らされるとともに、勤務時間も増加し、時には休日であっても、学生対応が必要です。自由裁量制の名のもとに、タダ働きさせられているように感じます。</p> <p>もっと、労働内容や、労働時間に見合った報酬が無ければ、この先、教員の確保ができなくなると危惧しています。また、教員により、仕事量が違うことにも不満があります。学生への対応も大切ですが、働く教員のケアも望んでいます。物理的に時間不足であるのに、研究をするように言われますが、本当に時間がありません。働き方改革は個人の努力ではできないのが現状です。(女性、50歳代、看護学、私立、准教授)</p>
150	<p>定員充足のための学生募集方策が最大の課題です。</p> <p>介護分野を志願する高校生が減少しており、留学生や社会人向けの募集活動を学科教員が行なっている、という現状です。</p> <p>短大を取り巻く環境の厳しさを痛感している日々です(特に介護分野)。(女性、40歳代、生活科学、私立、准教授)</p>
151	<p>幼児教育保育学科に所属しているが、専門学校に入学者ととられている現状がある。短大としての幼児教育保育学科については、個人的にあまり将来性を感じていない。むしろ、4年制で人材を育てた方がよいのではないかと考える。</p> <p>(男性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
152	<p>昨今の経済状況から、2年間で国家資格を得てある程度の安定した職を得られるという点で短期大学の存在意義は十分にあると考えています。</p> <p>(女性、40歳代、社会学・心理学、私立、准教授)</p>
153	<p>生き残りをかけるために、組織力を高めていく必要がある。</p> <p>(男性、40歳代、医・歯・薬学、私立、教授)</p>
154	<p>見通しは明るくないです。4年制大学志望者と就職専門学校志望者の間に入り、少子化でそもそもの数も少なく地方→中都市→大都市の順で潰れていきます。2年間の学びと就職、もしくは編入の保証がない短大はなくなるでしょう。保護者の期待も経済的なものになっています。30年前とは明らかに違う状況を理解し、4年制大学にシフトできなかった短大はこの10年でひっそりと役割をおえていくのではないかと思います。</p> <p>(男性、40歳代、社会学・心理学、私立、講師)</p>
155	<p>人を支援する専門職を養成するにあたり、知識・技術・倫理をしっかりと教授しなければならないが、2年間では難しいと感じている。職種によっては、4年課程にする必要があると考える。(女性、50歳代、看護学、私立、准教授)</p>
156	<p>本学は入試倍率の低下、4大志向の強まり、養成カリキュラムの変更などから短大を閉学(R6.3月)することとし、本年4年制大学が開学しました。</p> <p>短大を希望する学生は、主として金銭面か精神面に問題があり、長期の修学を希望しないという傾向があるように思います。</p> <p>私立大学の4割が定員割れという状況下で、学力で短大しか入れないという学生は少なく、経済面、メンタルに問題ある学生が集中することになっていると思われます。</p> <p>それを受け入れるか否かが今後の短大のあり方を決するものと考えます。</p> <p>(男性、50歳代、情報、公立、准教授)</p>

157	短期大学の現状の厳しさはともかく、今後どのようにあるべきか、その方向性を論理的に、現実的に、説得力をもって示してくれないと、短大の未来はかなり難しくなると思われる。そのような研究を期待したい。(男性、50歳代、社会学・心理学、私立、准教授)
158	社会人の学び直しの場合、機会の提供を行うようなあり方が、今後重要になってくるのではないかと個人的には考えている。(女性、20・30歳代、教育学・保育学、私立、准教授)
159	地域と密着した、体験重視のカリキュラム(台湾の科技のような)がイメージする短期大学像です。実際には、求められるコマ数が多く、難しいですが…。(女性、50歳代、教育学・保育学、私立、教授)
160	最も必要なのは柔軟性だと考える。学歴=給与という世の中の風潮から無理に4大を選び、のちに苦勞する若者をふやすことは不幸だと考えている。学びたいことを学びたい時に、個人のペースに合わせて学べる場所になっていけたらいいと考えている。とにかくどこかを出て、どこかに就職できればいいというのではなく、小中高大と進む中でとりこぼすことの多い社会、生活に関する視点を重視し、情報氾濫の世の中で正しいものを見きわめ、高度な専門知識よりも汎用的コミュニケーション力を持つ人材を作りたいが、社会(企業)ニーズがないのが課題。(女性、40歳代、人文科学、私立、准教授)
161	教職員全員が経営意識を高めるための仕組み作りが必要だと思います。職階が上がれば、何もしないようでは教育サービス全体(短大)の質に関わってくるので。(女性、40歳代、経済学・経営学、私立、講師)
162	4月から大学化(短大も併設中)しましたが、短大の先生方は教育重視系(もちろん研究もやっていましたが)、大学の先生方は研究重視系(もちろん教育もやりますが)だなと感じます。どちらにもメリット、デメリットがありますが、短大には学びやすさ、教育を大切にしてほしいと個人的には思います。(女性、40歳代、看護学、公立、准教授)
163	地方短大だと保護者の経済的理由もあり、今後も必要と考えております。地元企業にとっても就職割合を考えると必要だなと思います。(男性、60歳代以上、社会学・心理学、私立、教授)
164	私的な考えではありますが、四半世紀以上前より、我国の大学数は1/3で良いと感じております。短大に奉職してはいますが、短大の存在意義があるとは考えていません。高校生の姿からも、高校への進学にも疑問を感じます。高等教育とは、何を指すのでしょうか？魅力を感じません。(男性、50歳代、体育学、私立、教授)
165	任期なしで雇用して頂いておりましたが、実習指導で休みなく働き、今年度2度体調を崩しました。このため、業務の調整を願い、上長に相談をしたところ、事務局長より呼び出され、今年度末での退職、来年度の非常勤を言い渡されました。来年度は青森県でのスクールカウンセラーで生活することになります。この件も含め、淘汰の時代だなあと感じております。(男性、40歳代、教育学・保育学、私立、准教授)
166	少子化で学生を集めることが難しい。学生の学習意欲の低下がある。モチベーションを高める方法を知りたい。(女性、60歳代以上、理学療法学、私立、准教授)

167	<p>・短期大学士の学位が取得できて、何の意味があるのか？同じ資格(本学の場合、看護)を取得するのであれば、学費が安い専門学校の方が良いと考えている学生、保護者は多い。</p> <p>・短大より4年生大学の方がカリキュラムが充実していることは事実である。4年生大学へと移行すべきという考えは、本学の場合、大学全体であると思うが、本学の学生の場合は、学力低下が前提としてあり、プラスαの知識を得るというよりも、3年間で覚えるべきことが覚えられないため、3年間で行うことを4年間で時間をかけて覚えるという意味が強い。</p> <p>(女性、40歳代、看護学、私立、助教)</p>
168	<p>短大の役割が終わりつつあると日々感じている。しかし、理事会、学長の経営に工夫があれば存続していけるのではないかと。(男性、50歳代、教育学・保育学、私立、教授)</p>
169	<p>経済的に厳しい中で進学する学生も多く、地方によっては、特に産業界、自治体と連携しながら、機能の確立が必要である。しかし、少子化で、4年制志向の中で短大のあり方は、今後増々大きな課題と言える。しかし、短大はほぼ私立が占めており、国民に短期の高等教育の機会の提供という公的役割を私立が担っており、短大が存続できる様国が増々補助できる様、願いたいところである。また社会人の学び直しの場合として、それぞれ考えていきたい。</p> <p>(女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
170	<p>特に本学のような私立大学の場合、学生の授業評価や研究業績が公正に評価されているのか、不透明なケースが多い。感情的な人事が多く、論文を一本も書いていない方々が教授に昇格したり等、日常的におきている。私大の理事会に、チェック機能が必要だと感じている。質の高い教育を保障するために、大学経営の健全化があらゆるイミで必要(短大、4年大を問わない)。(女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、講師)</p>
171	<p>高校生の4年制大学への進学希望の増加と、18歳人口の減少という問題が、今日の短期大学の様々な課題を生んでいるように思います。</p> <p>2年制という強みが社会的に認知されない限り、こうした課題の解決・解消に結びつかないように思います。教職員への負担軽減によって、より充実した教育体制、研究支援が望まれます。(男性、40歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
172	<p>将来の職業に興味をもっていなかったり、日常の生活の上にも興味をもっていない若い人が増えているように思います。高品質のものがすぐに手に入ります。衣・食・住・全ての身の回りのものが有機的なものであって、手に入るまでに多くの手まひまがかけられていることを知らない現代の若者には、もっと、時間をかけて、一つ一つの工程を体験して、手に入る喜びと、よりよく自分が必要としているものを作りあげる経験を与えてあげたいと思っています。大学や院に進む学生とは、同様に指導できないと思います。知る喜びを共有できた時には、本当に幸せです。でも2年間でその喜びを体験させてあげる為には、教員が大学不在の時間が多くなるとは困ると思っています。(女性、50歳代、食健康科学、私立、講師)</p>
173	<p>現在では誰も大学に入れるような時代となり、必要とされた短大の使命は一通り果たされたように感じています。最近の学生は、基礎学力の低下が否めず、2年間という短期間での教育に難しさを感じており、今は4年をかけてしっかりと学ぶ必要があるのではないかと考えます。これからも短大を続けていくのであれば、少人数の定員にして競争率を上げるなど、質の良い学生を1人でも多く社会に送り出すようなサイクルにして、一定の成果をあげていかなければ、このまま悪循環に陥ってしまうように危機感を感じています。</p> <p>(女性、50歳代、生活科学、私立、准教授)</p>

174	<p>4年制大学志向が高い現代ではありますが、短大に勤務し、学生や保護者と触れ合い現状が理解できた中で、短大の重要性を実感しました。その内容は次の点です。(授業も、4年制の2/3程の内容ですので、実力もそこそこつきます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的負担の観点から — 「4年制は出せないが、2年制だったら資金が出せる。しかも、教員等の資格を取得し、就職してからも学べる」という保護者の方からのご意見 2. 進路変更がしやすい — 「悩み迷いながら決断したが、4年制や他領域へも編入ができ集中して学修に取り組める。」 <p>(女性、60歳代以上、教育学・保育学・看護学、私立、准教授)</p>
175	<p>本学も含めて、短期大学の今後は、絶望的と感じます。閉校も致し方ない、背後に資金力のある短大しか生き残れないのかなと感じます。ここ、地方の青森など、絶望的です。</p> <p>(男性、50歳代、生活科学、私立、准教授)</p>
176	<p>日本社会全体で短大存在の意義をもう一度確認して欲しい。北米などで一般的であるコミュニティカレッジくらい。日本でも短大の必要性を見直してほしい。高校や企業にも短大という選択した人に様々なチャンスを与えて欲しいです。</p> <p>(女性、50歳代、人文科学、私立、教授)</p>
177	<p>大学、短大、専門学校、そして高専でも、等しい社会的チャンスや生活余裕の持てる社会であれば、と思います。</p> <p>それは、それぞれの教育施設で働く者にとっても、です。</p> <p>(男性、40歳代、医・歯・薬学、私立、講師)</p>
178	<p>4年制大学への編入希望者が以前よりも増えており、就職指導のみならず、編入指導も求められるようになっていくことを負担に感じています。短期大学の4大化の議論も行っていくべきであると感じるが、議論を行う土壌が生まれている雰囲気ではない。</p> <p>(男性、20・30歳代、社会学・心理学、公立、講師)</p>
179	<p>課題も多くあると思いますが、経済面において、短期大学を選択し入学する学生もかなり多く存在します。地方短大においてはまだまだこの状況が続くと考えられます。就職ばかりに目が行きがちですが、奨学的を利用している学生も多く、収入との折り合い等学生のかかえる課題も多様になっております。(女性、60歳代以上、経済学・経営学、私立、准教授)</p>
180	<p>芸術分野において、求められる人材の低年齢化が世界的に進んでいることから、4年制大学に比べ世の中へ早く出ていくことのできる短大の芸術分野については存在意義が大きいと感じる。また公立短大は経済的に困難な学生にとって貴重な学びの場となっている。私の所属する短大は公立短大ということで学生がアルバイトで授業料と生活費を賄っているケースが多々あることから存在意義の大きさを感じている。</p> <p>(女性、50歳代、芸術・デザイン、公立、准教授)</p>
181	<p>短期大学は2年という短い時間で資格を付与するので、学級としての指導の工夫はもちろんのこと、学生の理解力や学習意欲の継続が求められます。例えば、理解力では、昨今の学力低下の影響を受け、プラスαの、いわゆる学び直しの時間を確保しなければなりませんし、毎日の講義の理解が進まなければ学習意欲の低下につながります。もしかしたら、2年での学習期間では、教員・学生の双方に負担が増えるだけかもしれません。今後の4年生大学への移行に期待したいところです。(男性、20・30歳代、人文科学、私立、講師)</p>

182	<p>短期大学のあり方及び自身の授業や研究について悩むことが多いです。4年制大学と専門学校との区別も難しく感じます。短期大学の目的が、就職、資格取得に偏ると、教育や保育を批判的にとらえる機会もなく、自分の思う「大学」とはかけ離れてしまいます。学生も安易な How to を求めて入学しているイメージです。同僚も、研究に熱心でない者も多く、大学及び短大の意義が分からなくなりそうです。特に、資格取得を推す学科は「職業専門学校化」しやすいように思います。今後の大学(短大含む)の意義を問い直さなければ、教員も学生も満足度が低下しそうです。(女性、20・30歳代、教育学・保育学、私立、助教)</p>
183	<p>大学でも専門学校でもない位置で、今後どこまで学生確保ができるのか切望な状況である。(周りには4年生大学や専門学校もあるため) (女性、60歳代以上、看護学、私立、講師)</p>
184	<p>看護師にとって、4年の基礎教育の必要性がうたわれている中、短期大学の存在意義について日々考えています。しかしセカンドキャリアとして教員になったのが遅かったため、短期大学で教育の世界を知ることができました。自身のキャリアアップのため、修士の学位を取得し、大学へ移るためもっと時間がほしいです。 (女性、50歳代、看護学、私立、助教)</p>
185	<p>少子化、専門分野の志望生徒の減少が重なり、入学者が減少傾向・現状維持である。しかし、短大の需要はあるので、しっかり学生募集を行い、入学者増につなげ、卒業生を出していきたい。(女性、40歳代、食健康科学、私立、助教)</p>
186	<p>日々の授業準備や学生対応で研究の時間が取れません。ぜひ、研究者としての力づけの時間を取れたらと考えます。 「短大＝4大落ちの学生が行く所」ではなく、「短大＝社会に早く出て活躍したい学生が行く所」になったら良いと思います！ (女性、20・30歳代、教育学・保育学、私立、助教)</p>
187	<p>専門学校との差別化をどうはかっていくのか？四年制大学との差別化、短大のメリットを活かす道を模索する必要がある。事務職員が担当すべき用語が教員に押しつけられていること、理事長が毎年カリキュラム変更をせまってくるなど教員の負担が大きいことは、教育の質向上に必ずしもつながっていないと考える。経営面の充実が求められる。 (女性、50歳代、経済学・経営学、私立、准教授)</p>
188	<p>改編・変革を要する短期大学の存続意義が突きつけられています。 (男性、50歳代、教育学・保育学、私立、教授)</p>
189	<p>少子化に伴い、進学率が下がっている。さらに短期大学の特色が明確化しにくい。学校数も増え入学者数を奪い合ってしまう。今後、近隣短大と単位互換制度を作り、大学の垣根を越えて、特色ある大学科目を選べるようにできないか。対抗する競争するのではなく、地域の短大が生き残る方向を模索すべき時が来ていると感じます。 (男性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
190	<p>特に地方にある短期大学では地域のニーズに応えていけるかが大事だと考えます。保育士、まちづくり人材などで貢献できれば、まだ存在する価値がある。 (男性、40歳代、経済学・経営学、私立、教授)</p>

191	<p>残念ながら、短大は”オワコン”になってしまっていると、しばしば、痛感させられます。成功やV字回復の方程式のようなものは存在せず、生き残る所は生き残る、そうでない所は募集停止となる、という、極めて厳しい状況であると認識しています。本学も現在の学生募集のペースのままだと、補助金の基準である収容定員半数の確保も危うい状況です。希望(高校生ならのニーズ)はあると信じたいのですが、中・長期定に考えると、短大の存在価値は本当にあるのか、確信が持てません。(男性、50歳代、人文・社会/外国語、私立、教授)</p>
192	<p>保育士資格、幼稚園教諭二種免許状取得は短期大学で可能であるが、実際の保育現場で求められている保育者としての資質・能力は、それだけで十分なのかどうか、社会的な評価が定まっていけないという現状であるため、確固たる理由をもって保育者養成系の短期大学を志望する高校生が、少なくなってしまったと考える。 (男性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、講師)</p>
193	<p>地域ごとに短大の現状は多岐に渡ると思います。本学も関東圏(首都圏)に属しますが、イメージとは異なる状況です。質の高い保育者を養成したいとは考えますが、地域に根ざした姿を求めることが重要なのか、これからの姿を見据えて養成するべきなのかとても悩ましいです。 (女性、40歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
194	<p>本学は小規模な短大で教員が20名弱である。 また事務局の体制も充分とは言えない。こうした中で、18歳人口の減少による志願者の減少に本学でも直面しつつあると考えるが、そのために大規模な予算を組んだ広告を打てることもできず、教員が広報業務の多くにかり出されていく。その部分で疲弊する教員はかなりの多いのではと推測している。(女性、20・30歳代、教育学・保育学、公立、准教授)</p>
195	<p>実務経験重視の教員採用には多に疑問を感じています。短大教員であっても、ある程度の研究実績と研究への意欲は必要であると考えます。そのための環境整備(ソフト面、ハード面両方)と研究活動が推奨される風土が短期大学にも必要ではないでしょうか。こういった事の積み重ねが社会的評価を高め、短期大学の明るい将来につながっていくと思えます。 (女性、50歳代、生活科学、私立、教授)</p>
196	<p>アカデミア、ひいては日本社会が家父長制的在り方を改めない限り、短大のみならず教育そのものが衰退していくと思えます。 (女性、20・30歳代、社会言語学・英語教育学、私立、助教)</p>
197	<p>地域とのつながりのある短期大学として、学生(子ども)の幼児期から短大生として、さらには就職、育児中にも何らかのつながり(役割)を持ち、社会的意義を大切にできたらと思う。少子化により、子どもも減るが、2年制に求められる学びもあり、経済的事情により入学してくる優秀な学生もいる。定員数を適正(例:80-60名)にすることで、4大よりも充実した指導もできると思う。小規模なりのフットワークの軽さも活かしていきたい。 (女性、40歳代、教育学・保育学・家政学、私立、准教授)</p>
198	<p>地域の保健・福祉を支える重要な役割を担っているが、自治体からの支援等があまり得られていない。とくに介護系の養成後は学科存続が危機的な状況、広報・周知による学生確保に力を入れてはいるが、難しい状況、国で検討中の「共通基礎課題」にわずかな望みをかけている状況。(男性、20・30歳代、福祉、私立、助教)</p>

199	<p>貴重な研究への取り組みに敬意を表します。私自身が大学教員となり1年未満ですが、これまでの職場との環境のギャップに慣れずにいます。大学と社会との乖離を感じます。研究教育活動と社会との接点を一定の緊張感を保ちつつも、その垣根をどう乗り越えるかについても重要な課題だと思います。(男性、40歳代、人文科学、公立、講師)</p>
200	<p>四大志向の高まりの影響もあり、短大から四年制大学への移行が増えている中、あえて短大を存続させ、専攻科というものの価値が見直されてもよいと思う。(既存の専攻科だけでなく、新たに設置する短大がもっと増えてよいと思うし、リカレント教育を推進する国ももっと支援してほしい)短大卒業すぐの学生と現場を経験した社会人が一緒に学ぶことにも意味があると思うし、専攻科ならそれが実現しやすい。(男性、40歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
201	<p>現状では、短期大学は存続危機であると考え。一方で、地域の職業人材の育成にとっては必要であり続けている。18才人口減少に対応し、リスキリングなど、社会人を募集するなどの対策が必要であろうが、地方の小規模短大が単独で対応するのは困難だ。 (男性、40歳代、社会学・心理学、私立、准教授)</p>
202	<p>短期大学の役割、特徴を明確にし、どのように入学者を確保していくか。 (男性、60歳代以上、農学、私立、教授)</p>
203	<p>入学希望者の減少が続いているのが課題としてあげられる。一度社会人としての勤務後、又は他大学卒業後の短期間の小学校教諭希望者にとっては県内で取得できる唯一の短大となって意義は大きい。保育士のための科目数が多く、学生の負担感は大きいですが、勤務してからも学び続けることの大切さ・現場との連携などが考えていくべきものかと思う。 (女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
204	<p>短期大学の価値の明確化＝あり方になるのではないのでしょうか。困難な課題です。 (男性、50歳代、教育学・保育学、私立、教授)</p>
205	<p>高校の進路指導において、短期大学を嫌がる学生が多いときくので、生徒にも影響があるのだと思っています。短期大学のあり方を大学の下位とせず独自の価値を内外にアピールすることが必要だと思いました。(男性、40歳代、芸術・デザイン、公立、講師)</p>
206	<p>教員の質の向上が急務。4年制大学の教員になるために、短大を踏み台にしている人が多く、学生や職場への想いが低い。「短大なんて」と貶める発言をする上司がいて、悲しくなる。短大だからこそその良さを売り出す工夫が欲しい。 (女性、60歳代以上、看護学、私立、准教授)</p>
207	<p>地域に密着するという点では、まだまだ不十分で不透明だと考えている。授業・演習科目等を使い、企業や公共団体との連携にもう少し踏み込む必要がある。 (男性、60歳代以上、図書館学、私立、教授)</p>
208	<p>国(文部科学省)が示す高等教育機関の在り方が、短大にそぐわないと感じることがある。地域密着、小規模、専門的人材育成等の短大の特長を今後も維持していくためには、他機関との連携というような、初動に負担のある方向性ではなく、より柔軟性を活かして、小まわりの良さを活かせるような短大の将来像が望ましいと考えています。 (女性、40歳代、教育学・保育学、私立、教授)</p>

209	18-20才をターゲットにするのではなく、もっと幅広い年代が自由に学ぶ機会を提供してゆくこと、そのことで、収益が得られるしくみを作ることが求められるのだと思います。 (男性、60歳代以上、食健康科学、私立、教授)
210	難しいと感じる。正直なところ本学は5年後になくなっていくと思う。そのため学位をとり、就活をしている。(男性、40歳代、食健康科学、私立、准教授)
211	短期大学は危機に直面している。入学者数の減少は近年著しいが、学内にその危機感はあまり見られない。短大自体が絶滅危惧種にならぬように、特色を前面に押し出していきたい。 (男性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)
212	看護師資格で看護学校と社会福祉士教育を行ってきています。介護福祉を目指す人たちの学力の低さは問題だと感じていますし、大学受験失敗・就職も不可で安易な状態での入学者が多く、意欲の無さを感じることも多いこと、また目指す職業ではないため、いい加減な学習の仕方であること等、不安だらけです(そうではない学生もおりますが、こちらは少数)。年々、学生のレベル低下を感じており、介護だけではないだろうと思うと、短大のあり方を見直すことも必要かと感じたりしています。素晴らしい短大の教育もあると思いますので、そうありたいです。(女性、60歳代以上、看護学、私立、教授)
213	かなり中途半端な教育機関の形成であり、研究機関の形態であり、研究機関としても、充分でないという印象を、短大で働いた経験から持っています。また、こうした学校が、子供をお金をかけずに進学させたい、大学教員の地位を得たい、県立大学を設立したいと思う人々に気軽な選択肢を与えている現実があると思います。 (女性、40歳代、社会学・心理学、公立、講師)
214	それぞれの短期大学の特色を出し、定員を削減して個別対応を充実していくことが望まれる。 (女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、准教授)
215	少子化、四年制大学志向の上昇、専門学校との競合など、短大を取り巻く環境は悪化し続けている。設置基準の改正など抜本的改革がなされないと短大の存続は難しい。 (男性、60歳代以上、経済学・経営学、私立、教授)
216	地方の短大は、18歳人口の減少で厳しい状況にある。特に保育者を養成することをメインにした短大は、マスコミ報道の影響もあり本当に厳しい。しかし、子どもが生まれてくるかぎり、保育者養成をやめることはできないし、むしろ質の高い保育者を養成していかなければ、地方はますます衰退していく。この国が地方を大切にすれば、地方の短大・大学を支援するべきである。(男性、60歳代以上、社会学・心理学、私立、教授)
217	18才人口の減少にあたり短大の存在意義は大きく問われている。特に、専門学校との差別化は必須。本学短大を卒業後、改めて専門学校に入学し、公務員を目指す学生も毎年存在する。最近のコロナ禍でリモート授業に慣れたことが原因なのか、対面授業に来学できない学生も1~2割いる。入学試験の方法も含め、再考のときがきたと認識している。 (女性、50歳代、人文科学、公立、講師)

218	<p>18歳人口の減少によって短期大学は存続の危機的状況になっていると思いますので、それぞれの短大が様々な特色を存分に出していかないと、続いていかないと考えられます。</p> <p>認証評価制度やGPAの導入など、外的要因で実施せざるを得ないものの中には、現実の学生教育にあてはまらないものや不合理なものも多い。形式的に取り入れているだけで、教職員の時間の割には教育効果は薄いと思われる。(男性、20・30歳代、教育学・保育学、私立、講師)</p>
219	<p>認証評価制度やGPAの導入など、外的要因で実施せざるを得ないものの中には、現実の学生教育にあてはまらないものや不合理なものも多い。形式的に取り入れているだけで、教職員の時間の割には教育効果は薄いと思われる。(男性、60歳代以上、数物系科学、私立、教授)</p>
220	<p>北陸の短大は一定のニーズがあると考えており、私の所属する美術は、今のところ定員を確保していますが、分野によって相当厳しくなっていることを実感する日々です。生き残りをかけ、独自の魅力を模索することが大切ですが、閉塞感、不安から暗くならず、日々の教育、教員・事務員の連携にやりがい、楽しさを見出だし、正のバイブスを持って取り組んでいきたいと改めて思っています。(男性、40歳代、芸術・デザイン、私立、教授)</p>
221	<p>専門学校、四大、歯学部・歯科大学付属系などとの差別化、特色をいかにだしていくか。 (男性、60歳代以上、医・歯・薬学、私立、教授)</p>
222	<p>教員数(専任)が少ないため、1人で4～7個の委員会に所属している状態。テニユアは専任の3割と決まっているらしく、賞与もないしOLのような給与のため、非常勤をしないと厳しい状況です。外部の方に言っても仕方ないことですが、安心して定着して働ける職場でない、教員も育たないし、長期的なビジョンでの学生指導もより良いものにならない気がしています。(男性、20・30歳代、人文科学、私立、准教授)</p>
223	<p>リカレント教育の場として広く社会に門戸を開くべきである。18～19歳の子供の数は減少し、4年制大学の需要が高いのならば、すみわけを狙うのがいいのでは。 (女性、60歳代以上、地理学、私立、講師)</p>
224	<p>短大教育機関としての社会的認知が広まらない限り、入学者の減少は妨げられない。短大全体自体での、社会認知を高めるムーブメントが起きない限り、消失もしくは四年生、短期大学部へ吸収されることは避けられない現状と考える。 (男性、50歳代、食健康科学、私立、講師)</p>
225	<p>高校との調査書のやりとりや文科省のアンケート等の電子化、効率化がはかれると人的リソースが限られていてもより大きなパフォーマンスをだせると思う。 (男性、40歳代、人文科学、私立、教授)</p>
226	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のできる職場・勤務体(勢)制ができるとよい。 ・短大教育のよさ(利点)を広く口言できるとよい。(男性、60歳代以上、教授)
227	<p>学力のない学生が、資格取得のためだけに学びに来ていると感じる。資格取得も、家族に言われたから来ているだけで、主体性がない。学力不足の学生に資格だけのために教育をするというのは、とても虚しい。学力があれば、4大に行くと思うので、短大の存在意義はないと感じる。また、経営状況も良くないと、教育に充分お金をかけられない、教員の給与もあがらないなど、やる気をなくすことがおこってくる。(女性、50歳代、食健康科学、私立、講師)</p>

228	<p>女子の四年制大学の進学が一般化して、短大の歴史的役割が終った。社会人のリカレント教育機関として短大の価値を新しく創出することが必要である。また高校生の留学準備コースとして短大を位置付けることも考えられる。</p> <p>(男性、50歳代、教育学・保育学、私立、教授)</p>
229	<p>私の勤務校のように地域に根づき、一定の評価も得、就職実績も堅調であっても、そのような実態を知らない(リサーチ不足の)高等学校教員や保護者からは四年制大学を勧められていて迷っているという受験生に多く出会います。</p> <p>短期大学の存在する意義や役割について、もう少し社会的な後ろだてが得られれば、状況が変わるのでしょうか。(女性、50歳代、社会学・心理学、私立、教授)</p>
230	<p>短期大学の認証評価(一般財団法人大学・短大基準協会)の対応業務が非常に多く、専任教員であっても、若手の教員に負担が大きい現状を改善してもらいたい。報告書の作成も、本来の目的とは異なり、認証で高評価を獲得できる内容に作文する前提で作業が進められており、実態を正確に把握するものになっていないと考えます。</p> <p>(男性、40歳代、人文科学、私立、講師)</p>
231	<p>前職も短大教員でしたが、募集停止となり現在の短大に移ってきたところ、また募集停止です。「短大の役目は終わった」という言葉をききますが、必要であると思っています。短期大学の役割が明確になることを望んでいます。</p> <p>(女性、50歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>
232	<p>制度上、「短期大学」としての必然性が見出しにくい位置づけが、基本的には見直されないまま継続してきたことで、結果的には「短期」で「経済的」または学科単位までの志望をしぼりにくいモラトリアムとしての志望理由が大部分となり、大半の学生にとって編入学に向けたステップと位置づけられる現状をみるに、短大側への努力・改革も当面はさておき長期的に「短期大学として」の発展を見出すことは困難であり、残念ながら歴史的使命を終えようとしている、とみなさざるを得ないと思われる。</p> <p>(男性、50歳代、人文科学、私立、准教授)</p>
233	<p>多様な生涯学習の機会を提供する場であるべき。18歳入学者にこだわるべきではない。アメリカのコミュニティカレッジのように地域の人々に広くチャンスを与える存在であるべき。ユニバーシティとは違う社会的役割を担っていると考えるべきだと考える。しかし、共感が得られそうにない。</p> <p>社会人にとっては2年間は4年間より学びやすい。</p> <p>(女性、50歳代、人文科学、私立、准教授)</p>
234	<p>本短期大学は少人数制で教員と学生との距離が近いですが、その分、アカデミックハラスメントについての問題やその対応が負担になっている現状もあります。教育の指導に力を入れる程、そのリスクが増加するため、どのように指導していくか、悩む時があります。</p> <p>(男性、20・30歳代、医・歯・薬学、私立、講師)</p>
235	<p>現代の高校生以下の子どもたちは短期大学のような少人数制の教育が向いているし必要であるにもかかわらず、四年制大学をすすめられてある意味不幸だと思う。これは短期大学のあり方の問題というよりも、社会認識の問題であると感じている。</p> <p>(男性、50歳代、社会学・心理学、私立、教授)</p>

236	<p>18歳人口が減少している中、大学・短大・専門学校それぞれの特徴を活かした教育がなされているが、修学支援制度等短大にとって厳しい状況であることは否めません。学生数を充足させることが重要であることは理解していますが、学生募集活動に多くの時間を費やし、入学してくる学生の中には合理的配慮が必要な学生も多く、中学・高校の教員同様のモチベーションを保つためには研究活動にあてる時間の確保が大事だと思います。</p> <p>(女性、60歳代以上、食健康科学、私立、教授)</p>
237	<p>短大は資格取得して即戦力として(保育・教育系の場合)、現場で喜ばれるが、資格(上級)取得への道が周知されておらず、給料も安いまま働くことが多い。短大で専攻科などを設けて、上級資格取得経路があっても、経営面より廃止にしている学校も多々ある。本校の場合、専攻科1年で大学(1回生)卒業同等とし、大学院進学した年齢の人は、修士学位を持っていても、論文が書けない実力不足の人を見かけるのは、誠に残念です。</p> <p>(女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
238	<p>短期大学が文科省の教育方針ばかりに重視しているため、教育も研究も余裕がない。今、超高齢社会に対応するために、地域の美容事業をヘルス事業として整理していくことが本学にはもともとめられているが、学内のこまごましたことで、人員も削減され、課題はふえるばかりであることが苦しい。(女性、60歳代以上、看護学、私立、教授)</p>
239	<p>研究がほぼできません。時間が足りません。 キャリアアップをしたくても、業績を積むことができないのです。 発達障害等も抱える学生が非常に多く、毎日このような学生の対応に追われますが、免許をだけたために丁寧な指導が教員に求められます。 いつか、この職場環境が改善されるよう、願っています。</p> <p>(女性、20・30歳代、芸術・デザイン、私立、助教)</p>
240	<p>入学生の学力の低下、勉学意欲の向上にどのように向き合っていくのか、これからの課題です。(女性、60歳代以上、食健康科学、私立、教授)</p>
241	<p>小規模な短期大学の運営において、今後の日本社会に欠ける少子化の進行は、多大な影響をもたらすと考えられる。その為、抜本的な少子化対策と、大学・短大への進学率を向上させる施策を国や地方公共団体などのレベルでとっていただければ幸いである。人文、理数を問わず、研究環境を維持、改善していくことは必要不可欠であり、どの分野を優先して等の小手先な対応ではジリ貧な結果となってしまうだろう。</p> <p>(女性、20・30歳代、人文科学、私立、講師)</p>
242	<p>専門学校との差別化が非常に難しく感じる。教員自身も自分の専門性を向上させようとする意欲を持った人材が少なく、学生の教育を考えたら、大学と専門学校だけでよいのではないかと短大に勤務しているが感じる。(大学勤務経験あり)学生数を確保するために、学力の低い生徒を入学させ、結局卒業できないなどの状況がある。</p> <p>(女性、40歳代、社会学・心理学、私立、講師)</p>
243	<p>社会に出る前の「リメディアル教育」の機会提供の場として短大は意味があると思います。本来は中学校、高等学校の役割だと思いますが、進学率の向上とのトレードオフと考えています。(男性、60歳代以上、情報、私立、教授)</p>

244	<p>出産後、研究と仕事(心理)の両立がとても難しく、研究する時間とエネルギーの捻出ができない。勤務校は教育と学校運営に力を入れているので、研究を支援する体制ではない。 (女性、20・30歳代、社会学・心理学、私立、講師)</p>
245	<p>保育者の需要は依然高いが、18才人口減少かつ四年制大学定員拡大の中で四大に入りやすくなり、四大志向が強く、短大志願者は減っている。保育、福祉分野は地域ニーズの特に高い分野で、このまま短大が減れば更に人材不足が加速する。しかし、私立短大としてこれ以上の自助努力でも経営を続けることは難しく、公立化も検討されなければならない時代ではないか。あまりに補助金が少なすぎる。(女性、40歳代、教育学・保育学、私立、講師)</p>
246	<p>前時代的設立意義を考えれば、短期大学は現代社会での役割を終えていると考えられる面が否定できず、その点で見れば、大学経営上の課題にもなっていると言える。しかし、継続的に、(少数にはなったが)入学者も存在しているので、新しいステージや存在意義を明確にしていくために積極的に行動した方がいいと考えてきた。ただし、本学は短大(文系)が来年の入学者をもって募集停止となった。教育的意義についての議論もなく、単に利益(収益)上の問題での閉科である。大学における教育に経営理念が影響するのはおかしいと思うが、これも仕方ないのだろうか。(女性、50歳代、人文科学、私立、教授)</p>
247	<p>定員割れが年々激しく、従前合格しなかったレベルの学生まで入学してきている。コロナによる経済的理由が原因で四年制をあきらめた学生、優秀な学生を基礎学力が明らかに足りていない学生が混在している。授業中も寝ていたりなど、ここ数年の学生の傾向が明らかにレベルが下がっている。欠席が多くとも寝ていても必ず卒業できるのが問題。そもそも、保育士も幼稚園教諭免許資格も卒業すれば自動的にもらえる。国家試験がないので…。 (女性、40歳代、教育学・保育学、私立、助教)</p>
248	<p>所属する短大は、学生の指導が充実し、育成したい人材の目標やグランドデザインができており、とても教育水準が高いと感じている。4年制大学より優れている部分も多い。しかしながら知名度が低く、“短大”ということはどうしても入学者数が一定以上のびず、様々な広報努力をして、コンサルタント会社からも評価を得ているのに結果につながらない。文科は相変わらず4大志向で、もっと学生のニーズに合わせた使いわけなどを検討すべきと思う。(4大、短大、専門それぞれのよさ)。 (女性、40歳代、特別支援教育学・障害児心理学保育学、私立、准教授)</p>
249	<p>現在2歳の子どもの育児と両立しながらの勤務です。オープンキャンパス、入試、補講など土日や時間外の勤務が多く、同居以外の家族(父母など)の協力がなければ勤務継続は不可能な状況です。私は恵まれています、サポート不足で就労の機会を得られない先生方も多いのではないのでしょうか。(女性、40歳代、生活科学、私立、准教授)</p>
250	<p>短大は実務的能力の育成に主眼がおかれ、実践力が期待されている。短期間での資格取得が目標となり、じっくり学問を対峙する余裕は少ないように思われます。意欲のある学生さんは学部への編入を計画して授業に取り組んでいる。2年間の学修を通して新たな考え方や価値観の形成につながるような機会を提供できるよう工夫しております。 (女性、60歳代以上、教育学・保育学、私立、教授)</p>
251	<p>専門学校との競合が苦しい。専門学校も認証評価、情報公開を義務化すべき。 (女性、50歳代、人文科学、私立、教授)</p>

252	<p>2年間で一般教養を含む密度の濃い教育が受けられることを短大全体でアピールすべき。まだ生き残りの道があるのでは。</p> <p>また、社会としても4年制の方が給与が高いことを、実務能力給に変え、給与格差などの勤務条件を是正して欲しい。(女性、50歳代、食健康科学、私立、教授)</p>
253	<p>新型コロナの影響で家計が大変な中で、短期大学の存在は大変大きいと考えます。「学び」の機会に、貧困層がつくような時代ではないはずなのに、やはりその風潮は残っているように感じます。専門学校ではなく短期大学で教養と資格を身に付けたい若者のチャンスをうばわないで欲しいと思う！(女性、50歳代、医・歯・薬学、私立、助教)</p>
254	<p>本学は保育者養成校であるが、学生と話していると経済的に厳しく、交通費や生活費、学費を自分で賄っている学生が多い。早く卒業して経済的に自立したいという印象がある。そういった学生を2年間という短期間で保育者としてまた社会人として育てる短期大学はユニバーサルアクセスの観点からも存続する意義のあるものと考えます。</p> <p>(女性、40歳代、教育学・保育学、私立、講師)</p>
255	<p>専門学校と四大志向のはざまにあって、短大の存在意義が問われていることを痛感しています。今後、定員割れが続いていく短大が多く出るでしょうし、改組や廃止を余儀なくされる短大も出るでしょう。時代の流れ、社会風潮もあるのでしょうか、「短期大学とは何なのか」を問い続けて頑張っていきたいと思います。</p> <p>(女性、50歳代、社会学・心理学、私立、教授)</p>
256	<p>①20才で社会に出て自立する道を、経済力に欠ける家庭の子にも与えるべきであり、短大の存在意義は大きい。</p> <p>②実務と直轄した教育を企業と密にコンタクトしつつ学生に提供することで、学生の自立を助けるという点で、4大も短大と同じ目的を有するはず。同じ目的に向かう4年コースと2年コースの併存は可能。</p> <p>(男性、60歳代以上、経済学・経営学、私立、教授)</p>
257	<p>就職対策も重要ではあるが、4大ニーズが高いため編入学指導も積極的に行なっている。短大として、特徴をだせているので、定員はほぼ確保している。今後もその特徴を維持していきたい。(男性、50歳代、社会学・心理学、私立、教授)</p>
258	<p>四年制大学と同様に教育だけでなく、研究にも注力できるような体制、方針となってほしいと思います。</p> <p>手厚い教育が時には過保護とも思えることもあり、教育方針に疑問を感じる場合があります。</p> <p>(女性、20・30歳代、食健康科学、私立、講師)</p>
259	<p>専門学校との差別化をいかに図るか、このことが短大に問われていると思います。</p> <p>(男性、60歳代以上、経済学・経営学、私立、教授)</p>
260	<p>20歳で資格を得て社会に出られるルートは必要であり、すべて4年制に置き換えることが得策とは思えない。また、1度社会に出た後の学び直しのための環境として4年ではなく2年で資格取得できるところも短大のメリットとして大きいと考える。多様化の受け口として、短大の在り方をもっと前向きに考えていく事がこれからの社会には必要であると考えます。</p> <p>(女性、50歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>

261	<p>4大だけでなく短大は2年で社会に有為な若者を送り出す役目がある。卒業後、4大に編入を希望する学生にとって、進路先をよく考えられる2年となれば、本人、社会にとっても有益である。小中高での教育力がうまく行っていない現実も痛感している。こうした背景もある為、短大での2年間は彼らを再教育する事は必要と考える。</p> <p>(男性、50歳代、私立、教授)</p>
262	<p>四年制大学との差別化を図っていくこと、メリットをメリットとして発信できるようにすることが必要と考えています。</p> <p>(女性、40歳代、教育学・保育学、私立、講師)</p>
263	<p>事務職員の圧倒的な不足により、教員の事務業務が肥大化している(ここ5年)。学生の確保と財政安定が十分でないと、教員が疲弊し、つぶれてしまう。四大に誰でも入れる“全入時代”だからこそ、“いまこそ短大”を打ち出し、社会的に、その意義が再評価されるとよい。</p> <p>(女性、40歳代、教育学・保育学、私立、准教授)</p>